都立墨東病院内科
東京医師アカデミー
専門研修プログラム

東京都立墨東病院

文中に記載されている「専門研修プログラム整備基準」・「内科専門研修カリキュラム 」・「研修手帳（疾患群項目表）」・「技術・技能評価手帳」は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

都立墨東病院内科東京医師アカデミー
専門研修プログラム　目次

都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム　・・・・・　２

同専門研修施設群　・・・・・２１

同専門研修プログラム管理委員会　・・・・・２２

（別表１）到達目標　・・・・・２４

（別表２）週刊予定表　・・・・・２５

（別添１）都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム連携施設情報

（別添２）都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム専攻医マニュアル

（別添３）都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム指導医マニュアル

都立墨東病院内科東京医師アカデミー

専門研修プログラム

研修期間：3 年間(基本施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間)
ただし内科・サブスペシャリティ混合タイプは 4 年間

1　理念・使命・特性

A 理念【整備基準 1】

(1) 都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム（以下、本プログラム）は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院である東京都立墨東病院を基幹施設として、東京都区東部医療圏並びに近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て東京都の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として東京都全域を支える内科専門医の育成を行う。

(2)初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度「内科専門研修カリキュラム」 に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得する。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力である。また、知識や技能に偏らずに患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力である。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験が加わることに特徴がある。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とする。

B 使命【整備基準 2】

(1)東京都区東部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、①高い倫理観を持ち、②最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行う。

(2)本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高め、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行う。

(3)疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に対し積極的に貢献できる研修を行う。
(4)将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行う。

C 特性

(1)本プログラムは、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院である東京都立墨東病院を基幹施設として、東京都区東部医療圏、近隣医療圏および東京都島嶼にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練される。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の計 3 年間である。
(2) 本プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで可能な範囲で、経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。そして、個々の患者に適切な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標の達成とする。
(3)基幹施設である東京都立墨東病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できる。
(4)基幹施設である東京都立墨東病院での 2 年間(専攻医 2 年修了時)で､「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）（以下、J-OSLER）に登録できる。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できる(別表 1 「東京都立墨東病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照)。
(5) 本プログラム施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 3 年目の 6 カ月～1 年間を、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践する。
(6)基幹施設である東京都立墨東病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間(専攻医 3 年修了時)で､「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できる。可能な限り､「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とする(指導医マニュアル：別添 3 参照)。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することである。
内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、
①地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)
②内科系救急医療の専門医

③病院での総合内科(generality)の専門医
④総合内科的視点を持った subspecialist
に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得する。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにある。
本プログラムでの研修修了後は、その成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と general なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成する。そして、東京都区東部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要する。また、希望者は subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果である。

2　募集専攻医数【整備基準 27】

下記(1)～(5)により、本プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 7 名とする。
・剖検体数は 2024 年度 9 体、2025 年度 5 体である。

表　東京都立墨東病院診療科別診療実績

2025 年実績	入院延患者（延人数/年）	外来延患者数(延人数/年)
消化器内科	20,233	34,982
循環器内科	10,153	15,524
糖尿病・内分泌内科	465	6,029
腎臓内科	6,533	9,868
呼吸器内科	10,516	12,845
脳神経内科	11,215	10,889
血液内科	6,608	8,216
救急科	27,080	10,562
感染症科	5,492	3,043
膠原病(アレルギー)科	3,949	16,040

(1)代謝、内分泌、膠原病(アレルギー)領域の入院患者は少なめだが、外来患者診療を含め、1 学年 7 名に対し十分な症例を経験可能である
(2)13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍している(資料 1　「都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修施設群」参照)
(3)1 学年 7 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能である
(4)専攻医 3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には、大学病院 8 施設、国立病院 3 施設、都立病院(地域基幹病院)11 施設、地域医療密着型病院 17 施設の 40 施設あり（島嶼 11 施設)、専攻医の

さまざまな希望・将来像に対応可能である
(5)専攻医 3 年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能である

3　専門知識・専門技能とは【整備基準 4､5】

(1)専門知識 (「内科専門研修カリキュラム 」参照)
専門知識の範囲(分野)は、「総合診療科」「消化器」、「循環器」、「内分泌・代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー・膠原病」「感染症」、ならびに「救急」で構成される。「内科専門研修カリキュラム 」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標(到達レベル)とする。
(2)専門技能(「技術・技能評価手帳」参照)
内科領域の「技能」とは、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指す。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わる。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできない。

4　専門知識・専門技能の習得計画【整備基準 8～10】

(1)到達目標 (指導医マニュアル：別添 3 参照)
主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とする。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がある。そこで、専門研修(専攻医)年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定する。

〇専門研修(専攻医)1 年

・症例：「研修手帳(疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録する。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われる。
・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録する。
・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、subspecialty 上級医とともに行うことができる。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行う。

〇専門研修(専攻医)2 年

・症例：「研修手帳(疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、J-OSLER にその研修内容を登録する。
・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了する。

・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、subspecialty 上級医の監督下で行うことができる。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行う。専門研修(専攻医)1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。

〇専門研修(専攻医)3 年

・症例：主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とする。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上(外来症例は 1 割まで含むことができる)を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録する。
・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認する。
・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)による査読を受ける。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂する。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理(アクセプト)を一切認められないことに留意する。
・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができる。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行う。専門研修(専攻医)2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図る。専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とする。J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成する。
※　東京都立墨東病院内科施設群研修では、「内科専門研修カリキュラム 」の知識、技術・技能習得は必要不可欠なものであり、習得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長する。一方で、カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させる。

〇専門研修(専攻医)4 年

特に希望しない場合を除き、内科専門医取得後も東京都医師アカデミー所属の専攻医としてサブスペシャリティ領域の専門医取得（内科・サブスペシャリティ混合タイプを選択した場合は内科専門医ならびにサブスペシャリティ専門医の双方を取得）に向けた研修を基幹施設において継続することが可能である。
また、本プログラムでは、都立病院が基幹施設となっている全領域の専門研修プログラムと合同で、集合研修を実施する。

①災害医療研修（1 年次）
・災害医療の基礎概念を理解する。
・災害現場初期診療、救護所内診療、搬送等を想定して、実践的な訓練を行う。
・災害現場での手技を習得する。

②研究発表会（2 年次）

・臨床研修、研究成果を学会に準じてポスター展示と口演により発表する。

(2)臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得される。内科領域を 70 疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験する(下記①～⑥参照)。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得する。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載する。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足する。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにする。

①内科専攻医は、担当指導医もしくは subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽する。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。

②定期的(毎週 1 回)に開催する各診療科あるいは内科系合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得る。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高める。

③内科外来(初診を含む)と subspecialty 診療科外来(初診を含む)を少なくても週 1 回、1 年以上担当医として経験を積む。

④ER・救命救急センターの外来、病棟当直で内科領域の救急診療の経験を積む。

⑤当直医として病棟急変などの経験を積む。

⑥必要に応じて、subspecialty 診療科検査を担当する。

(3)臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

①内科領域の救急対応、②最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、③標準的な医療安全や感染対策に関する事項、④医療倫理・医療安全・感染防御・臨床研究や利益相反に関する事項⑤専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて以下の方法で研鑽する。

ⅰ)定期的(毎週 1 回程度)に開催する各診療科での抄読会

ⅱ)医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会(基幹施設、基本：年 8 回))

ⅲ)CPC(基幹施設、基本：年 6 回)))

ⅳ)研修施設群合同カンファレンス(年 2 回開催予定)

ⅴ)地域参加型のカンファレンス(基幹施設：区東部医療圏講演会、江戸川医学会、江東区医師会医学会；年 8 回開催予定)

ⅵ)JMECC 受講(基幹施設、年 1 回開催予定：受講者 12 名程度)

※内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講する。

ⅶ)内科系学術集会(下記「7 学術活動に関する研修計画」参照)

ⅷ)各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会など

(4)自己学習【整備基準 15】

「内科専門研修カリキュラム 」では、知識に関する到達レベルをＡ(病態の理解と合わせて十分に

深く知っている)とＢ(概念を理解し、意味を説明できる)に分類、技術・技能に関する到達レベルをＡ(複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる)、Ｂ(経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる)、Ｃ(経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる)に分類、さらに、症例に関する到達レベルをＡ(主担当医として自ら経験した)、Ｂ(間接的に経験している(実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した))、Ｃ(レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した)と分類している(「内科専門研修カリキュラム」参照)。
自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習する。
①内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
②日本内科学会雑誌にある MCQ
③日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題　など

(5)研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて、以下を web ベースで目時を含めて記録する。
・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録する。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行う。
・専攻医による逆評価を入力して記録する。
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を、受理(アクセプト)されるまで J-OSLER 上で行う。
・専攻医は学会発表や論文発表の記録を J-OSLER に登録する。
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等(例:CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会)の出席を J-OSLER 上に登録する。

5　プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】

本プログラムでのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した(資料１参照)。
プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である東京都立墨東病院臨床研修管理委員会が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促す。

6　リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢である。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となる。
本プログラム施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、
(1)患者から学ぶという姿勢を基本とする
(2)科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う(EBM：Evidence Based Medicine)
(3)最新の知識、技能を常にアップデートする(生涯学習)

(4)診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う
(5)症例報告を通じて深い洞察力を磨く
といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養する
併せて、
(1)初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う
(2)後輩専攻医の指導を行う
(3)メディカルスタッフを尊重し、指導を行う
を通じて、内科専攻医としての教育活動を行う

7　学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、
(1)内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加する(必須)
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する
(2)経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う
(3)臨床的疑問を抽出して臨床研究を行う
(4)内科学に通じる基礎研究を行う
を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにする。
また、内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行う。
なお、専攻医が社会人大学院などを希望する場合でも、本プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨する。

8　コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力である。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能である。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性である。

本プログラム施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、subspecialty 上級医とともに下記(1)～(10)について積極的に研鑽する機会を与え、内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得する。
(1)患者とのコミュニケーション能力
(2)患者中心の医療の実践
(3)患者から学ぶ姿勢
(4)自己省察の姿勢
(5)医の倫理への配慮

(6)医療安全への配慮
(7)公益に資する医師としての責務に対する自律性(プロフェッショナリズム)
(8)地域医療保健活動への参画
(9)他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
(10)後輩医師への指導
※教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につける。
プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である東京都立墨東病院臨床研修管理委員会が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促す。

9　地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。本プログラム施設群研修施設は東京都区東部医療圏、近隣医療圏および東京都島しょ等のへき地医療機関から構成されている。
東京都立墨東病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できる。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につける。
連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である医療機関（資料１参照）で構成している。
高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につける。
地域基幹病院では、東京都立墨東病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねる。
地域医療密着型病院・診療所では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、島しょ等における医療、在宅医療などを中心とした診療経験を研修する。
都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修施設群(資料 2)のほとんどの連携施設は、東京都立墨東病院から電車を利用して、1 時間 30 分程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は少ない。また、他府県・島しょ等のへき地医療機関での研修を希望する場合は、その旨考慮する。

10　地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

本プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人

の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としている。
本プログラムでは、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できるとともに、へき地医療、島嶼医療を経験できる。

11　内科専攻医研修(モデル)【整備基準 16】

研修プログラムとして日本内科学会の提示する 4 つのタイプ、すなわち I 内科標準タイプ、II サブスペシャリティ重点研修 1 年タイプ、III サブスペシャリティ重点研修 2 年タイプ、IV 内科・サブスペシャリティ混合タイプのいずれも選択可能である。ただし、III サブスペシャリティ重点研修 2 年タイプについては初期臨床研修での経験症例が概ね 80 例の登録が可能な場合に限られる。
当プログラムの専攻医は基幹施設である東京都立墨東病院内科で 2 年間(混合タイプは 3 年間)を、連携施設・特別連携施設で 1 年間の研修を行う。選択すべき施設と期間は専攻医の希望の他、達成度、進捗度を合わせてプログラム管理委員会で検討し決定する。4 年次は原則サブスペシャリティ専門医取得に向けた研修を継続するが、I～III のプログラム選択者のうち内科専門医を取得した場合には計 3 年間でのプログラムの修了も可能とする。

図 1　都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム（概念図）



12　専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19-22】

(1)東京都立墨東病院臨床研修管理委員会の役割

・東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を行う。

・本プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認する。

・3 か月ごとに「研修手帳（疾患群項目表)」にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促す。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。

・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促す。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。

・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡する。

・年に 2 回、専攻医自身の自己評価を行う。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的フイードバックを行って、改善を促す。

・臨床研修管理委員会は、メディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)を毎年 2 回行う。担当指導医、subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査技師・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価する。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価する。評価は無記名方式で、臨床研修管理委員会もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録する(他職種はシステムにアクセスしない)。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行う。

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット(施設実地調査)に対応する。

(2)専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医(メンター)が本プログラムプログラム委員会により決定される。

・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をする。この作業は目常臨床業務での経験に応じて順次行う。

・専攻医は、1 年目専門研修修了時に「内科専門研修カリキュラム 」に定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにする。2 年目専門研修修了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにする。3 年目専門研修修了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了する。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認する。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、「研修手帳（疾患群項目表)」での専攻医による症例登録の評価や臨床研修管理委員会からの報告などにより研修の進捗状況を把握する。専攻医は subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談する。担当指導医と subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整する。

・担当指導医は subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行う。

・専攻医は、専門研修(専攻医)2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLER に登録する。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読･評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要がある。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修(専攻医)3 年次修了までにすべての病歴要約が受理(アクセプト)されるように改訂する。これによって病歴記載能力を形成的に深化させる。

(3)評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討する。その結果を年度ごとに東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認する。

(4)修了判定基準【整備基準 53】

①担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、以下ⅰ)～vi)の修了を確認する。

ⅰ)主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上(外来症例は 20 症例まで含むことができる)を経験することを目標とする。その研修内容を J-OSLER に登録する。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる)を経験し、登録済み(指導医マニュアル：別表 1 参照)。

ⅱ)29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理(アクセプト)

ⅲ)所定の 2 編の学会発表または論文発表

ⅳ)JMECC 受講

ⅴ)プログラムで定める講習会受講

vi)J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

②東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行う。

(5)プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」､「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画(FD)の実施記録」は、J-OSLER を用いる。

なお、「東京都立墨東病院施設群内科　東京医師アカデミー専攻医研修マニュアル」(P41 資料 7)と「都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修指導者マニュアル」(P48 資料 8)とを別に示す。

13　専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37-39】(資料 5「東京都立墨東病院内科専門研修管理員会」参照)

都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラムの管理運営体制の基準

(1)内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。なお、内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者(副院長)、プログラム管理者

(内科責任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)、事務局代表者、内科 subspecialty 分野の研修指導責任者(診療科部医長)および連携施設担当委員で構成される。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる(資料 5「東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)。東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を、東京都立墨東病院臨床研修管理委員会におく。

(2)本プログラム施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置する。委員長 1 名(指導医)は、基幹施設と連携して活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 2 月に開催する東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席する。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行う。

①前年度の診療実績

a)病院病床数、b)内科病床数、c)内科診療科数、d)1 か月あたり内科外来患者数、e)1 か月あたり内科入院患者数、f)剖検数

②専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専攻医数、d)次年度の専攻医受け入れ可能人数

③前年度の学術活動

a)学会発表、b)論文発表

④施設状況

a)施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科との合同カンファレンス、e)抄読会、f)机、g)図書館、h)文献検索システム、i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j)JMECC の開催

⑤subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医(内科)数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14　プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)を活用する。厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨する。指導者研修(FD)の実施記録として、J-OSLER を用いる。

15　専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とする。専門研修(専攻医)1 年目、2 年目は基幹施設である東京都立墨東病院の就業環境に、専門研修(専攻医)3 年目は連携施設もしくは特別連携施設の就

業環境に基づき、就業する(資料１参照)。

〇基幹施設である東京都立墨東病院の整備状況

・研修に必要な図書室とインターネット環境がある
・東京都医員(非常勤)として労務環境が保障されている
・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課職員担当)がある
・東京都では、セクシャル・ハラスメント防止連絡会議を設置している。また、都立病院を所管している東京都病院経営本部、病院庶務課にはそれぞれ相談窓口を設置しており、セクハラ・パワハラに関する相談・苦情に対応している
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている
・敷地内に院内保育所があり、利用可能である
※　専門研修施設群の各研修施設の状況については、資料２　「都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修施設群」を参照。
また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図る。

16　専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48-51】

(1)専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を年に 2 回行う。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行う。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧する。集計結果は、本プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てる。

(2)専攻医等からの評価(フイードバック)をシステム改善につなげるプロセス

・専門研修施設の内科専門研修委員会、東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握する。把握した事項については、東京都立墨東病院内科　専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討する。
①即時改善を要する事項
②年度内に改善を要する事項
③数年をかけて改善を要する事項
④内科領域全体で改善を要する事項
⑤特に改善を要しない事項
なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とする。
・担当指導医、施設の内科研修委員会、東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会、およ

び日本専門医機構内科領域研修委員会はJ-OSLERを用いて専攻医の研修状況を定期的にモニターし、本プログラムが円滑に進められているか否かを判断して本プログラムを評価する。
・担当指導医、各施設の内科研修委員会、東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニターし、自律的な改善に役立てる。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てる。

(3)研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

東京都立墨東病院臨床研修管理委員会と東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会は、本プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応する。その評価を基に、必要に応じて本プログラムの改良を行う。
本プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告する。

17　専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、website での公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集する。翌年度のプログラムへの応募者は、東京都立墨東病院臨床研修管理委員会の website の東京都立墨東病院医師アカデミー募集要項(都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム：内科専攻医)に従って応募する。書類選考および面接を行い、東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知する。(問い合わせ先：東京都立墨東病院臨床研修管理委員会事務局 E-mail: bo_shomu@tmhp.jp 、HP:www.tmhp.jp/bokutoh/)
本プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行う。

18　内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて本プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証する。これに基づき、東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認める。他の内科専門研修プログラムから本プログラムへの移動の場合も同様である。
他の領域から本プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに本プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認める。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定による。
疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム修了要件を満たしていれば、休職期間が 4 か月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとする。これを超え

る期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要である。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算(1 目 8 時間、週 5 目を基本単位とする)を行なうことによって、研修実績に加算する。
留学期間は、原則として研修期間として認めない。

資料１　東京都立墨東病院施設情報

表 1　施設の概要(令和 8 年 4 月現在)

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	東京都立墨東病院	729	218	**9**	23	34	5

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立墨東病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階(○、△、×)に評価しました。
〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 23】1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課職員担当)がある。 ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、病児・病後児保育も利用可能である。
認定基準【整備基準 23】2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 23 名在籍している。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医);専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置する。

	・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(基本：年 8 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(基本：年 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス(区東部医療圏講演会、江戸川医学会、江東区医師会医学会：年 8 回開催予定)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(基本：年 1 回)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。 ・特別連携施設は東京都島嶼であり、電話やメールでの面談･Web 会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。
認定基準【整備基準 23】3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2024 年度実績 9 体)を行っている。
認定基準【整備基準 23】4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2025 年度実績 12 回)している。 ･治験管理室を設置し､定期的に受託研究審査会を開催(2025 年度実績 12 回)している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。(2025 年度実績 9 演題)
指導責任者	水谷　真之 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都立墨東病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であり、東京都区東部医療圏･近隣医療圏、東京都島嶼にある連携施設･特別違携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院〈初診･入院～退院･通院〉まで経時的に、診断･治療の流れを通じて、社会的背景･療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 34 名、日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本肝臓学会専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 12 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 0 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会 6 名、日本救急医学会救急科専門医 23 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 10,666 名(1 ケ月平均)入院患者 8,520 名(1 ケ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診･病病達携、島嶼医療なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本プライ・マリケア連合学会認定医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本感染症学会研修施設など

資料 2　都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修施設群

表 1　連携施設（施設に関する情報は別添 1 を参照）

No.	所在地	病院名
1	茨城県	筑波大学附属病院
2	茨城県	筑波記念病院
3	茨城県	ＪＡとりで総合医療センター

4	千葉県	千葉大学医学部附属病院
5	千葉県	日本医科大学千葉北総病院
6	千葉県	東京ベイ・浦安市川医療センター
7	千葉県	国立国際医療研究センター国府台病院
8	東京都	東京医科歯科大学病院
9	東京都	東京大学医学部附属病院
10	東京都	東京大学医科学研究所附属病院
11	東京都	同愛記念病院
12	東京都	青梅市立総合病院
13	東京都	榊原記念病院
14	東京都	大森赤十字病院
15	東京都	国立がん研究センター中央病院
16	東京都	東京都立広尾病院
17	東京都	東京都立大久保病院
18	東京都	東京都立大塚病院
19	東京都	東京都立駒込病院
20	東京都	東京都立豊島病院
21	東京都	東京都立荏原病院
22	東京都	東京都立多摩総合医療センター
23	東京都	東京都立東部地域病院
24	東京都	東京都立神経病院
25	東京都	東京都立松沢病院
26	東京都	東京都立多摩南部地域病院
27	神奈川県	横須賀共済病院
28	静岡県	静岡県立静岡がんセンター
29	静岡県	静岡てんかん・神経医療センター
30	大阪府	国立循環器病研究センター
31	兵庫県	川西市立総合医療センター
32	奈良県	奈良県立医科大学附属病院
33	茨城県	筑波メディカルセンター病院
34	愛知県	豊橋ハートセンター
35	千葉県	国際医療福祉大学成田病院
36	東京都	国立精神・神経医療研究センター病院
37	神奈川県	横浜市立みなと赤十字病院
38	沖縄県	浦添総合病院
39	福岡県	飯塚病院
40	千葉県	亀田総合病院

表 2　特別連携施設

No.	所在地	病院名
1	東京都	利島村国保診療所
2	東京都	新島村国保本村診療所
3	東京都	新島村国保式根島診療所
4	東京都	神津島村国保直営診療所
5	東京都	三宅村国保直営中央診療所
6	東京都	御蔵島国保直営御蔵島診療所
7	東京都	青ヶ島村国保青ヶ島村診療所
8	東京都	小笠原村立小笠原村診療所
9	東京都	小笠原村立小笠原村母島診療所
10	東京都	檜原村国保檜原診療所
11	東京都	奥多摩町国保奥多摩病院
12	岡山県	哲西町診療所

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。本プログラム施設群研修施設は東京都、茨城県および東京都の島しょ等へき地の医療機関から構成されている。

東京都立墨東病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院である。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につける。

連携施設・特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院や東京都島しょ等のへき地医療機関で構成している。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につける。

地域基幹病院では、東京都立墨東病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねる。

地域医療密着型病院・診療所では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、東京都の島しょ等の医療などを中心とした診療経験を研修する。

専門研修施設(達携施設･特別達携施設)の選択

・専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定する。

・病歴提出を終える専攻医 3 年目の 6 カ月～1 年間、連携施設・特別連携施設で研修をする(図 1)。なお、サブスペシャリティ研修コースでは、3 年目後半からサブスペシャリティ研修に移行する(研修達成度による)。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

東京都区東部医療圏と近隣医療圏および東京都の島しょ、地方連携施設から構成している。ほとんどの連携施設は、東京都立墨東病院から電車を利用して、1 時間 30 分程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は少ない。また、他府県・島しょ等のへき地医療機関での研修を希望する場合は、その旨考慮する。

資料 3　都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修管理委員会

東京都立墨東病院

水谷　真之(委員長、プログラム統括責任者、脳神経内科分野医長)
市原　登(循環器分野責任者)
小林　正芳(呼吸器内科分野責任者)
安田　睦子(内分泌・代謝分野責任者)
東　正新（消化器分野責任者)
小杉　信晴(血液分野責任者)
杉山　和宏(救急分野責任者)
中村　ふくみ(感染分野責任者)
島根　謙一(リウマチ膠原病科責任者)

連携施設担当委員

斉木　臣二（筑波大学附属病院)
池澤　和人（筑波記念病院)
山本　貴信（ＪＡとりで総合医療センター)
小林　欣夫（千葉大学医学部附属病院)
小林　宣明（日本医科大学千葉北総病院)
江原　淳（東京ベイ・浦安市川医療センター)
酒匂　赤人（国府台医療センター)
須佐　紘一郎（東京科学大学病院)
藤尾　圭志（東京大学医学部附属病院)
安井　寛（東京大学医科学研究所附属病院)
三宅　敦子（同愛記念病院)
大友　建一郎（青梅市立総合病院)
七里　守（榊原記念病院)
前田　伸也（大森赤十字病院)
堀之内　秀仁（国立がん研究センター中央病院)
田島　真人（東京都立広尾病院)
鈴木　和仁（東京都立大久保病院)

藤江　俊秀（東京都立大塚病院）
岡本　朋（東京都立駒込病院）
藤ヶ﨑　浩人（東京都立豊島病院）
水谷　勝（東京都立荏原病院）
佐藤　文紀（東京都立多摩総合医療センター）
鈴木　聡子（東京都立東部地域病院）
蕨　陽子（東京都立神経病院）
林　栄治（東京都立松沢病院）
本城　聡（東京都立多摩南部地域病院）
渡辺　秀樹（横須賀共済病院）
高橋　利明（静岡県立静岡がんセンター）
髙嶋　浩嗣（静岡てんかん・神経医療センター）
野口　輝夫（国立循環器病研究センター）
厨子　慎一郎（川西市立総合医療センター）
赤井　靖宏（奈良県立医科大学附属病院）
飯島　弘晃（筑波メディカルセンター病院）
坂元　裕一郎（豊橋ハートセンター）
村井　弘之（国際医療福祉大学成田病院）
高橋　祐二（国立精神神経医療研究センター病院）
萩山　裕之（横浜市立みなと赤十字病院）
仲村　健太郎（浦添総合病院）
小田　浩之（飯塚病院）
中路　聡（亀田総合病院）

オブザーバー

内科専攻医代表①
内科専攻医代表②

別表１　東京都立墨東病院疾患群症例病歴要約到達目標（内科専攻研修１において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について）

	内　容	専攻医３年修了時（カリキュラムに示す疾患群）	専攻医３年修了時（修了要件）	専攻医２年修了時（経験目標）	専攻医１年修了時（経験目標）	※4 病歴要約提出数
分　野	総合内科Ⅰ（一般）	1	※3 1	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者）	1	※3 1	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	※3 1	1		
	消化器	9	※1 ※3 5 以上	※1 5 以上		※1 3
	循環器	10	※3 5 以上	5 以上		3
	内分泌	4	※3 2 以上	2 以上		※2 3
	代　謝	5	※3 3 以上	3 以上		
	腎　臓	7	※3 4 以上	4 以上		2
	呼吸器	8	※3 4 以上	4 以上		3
	血　液	3	※3 2 以上	2 以上		2
	神　経	9	※3 5 以上	5 以上		2
	アレルギー	2	※3 1 以上	1 以上		1
	膠原病	2	※3 1 以上	1 以上		1
	感染症	4	※3 2 以上	2 以上		2
	救　急	4	※3 4	4 以上		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1

※4 合　計	70 疾患群	56 疾患群（任意選択含む）	45 疾患群（任意選択含む）	20 疾患群	※5 29 症例（外来は最大 7）
※4 症例数	200 以上（外来は最大 20）	160 以上（外来は最大 16）	120 以上	60 以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

なお「消化管」の提出病歴要約として、研修手帳の消化器領域・疾患群 9 にある「急性腹症」

は「消化管」としての提出には含まれない．救急領域としての提出は可能。

※2 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出すること。
例） 「内分泌」2 例＋「代謝」1 例 or 「内分泌」1 例＋「代謝」2 例

※3 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。

※4 初期臨床研修時の症例は、例外的に各研修プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる（下記の内科領域 初期研修の症例取り扱いについて参照)。

※5 病歴要約の領域別症例は異なる疾患群からそれぞれ作成すること。

《参 考》: 内科領域 初期研修の症例取り扱いについて

◆以下の条件を満たすものに限り、その取り扱いを認める．

1. 日本内科学会指導医が直接指導をした症例であること．
2. 主たる担当医師としての症例であること．
3. 1 の指導医から内科領域専門医としての経験症例とする承認が得られること．
4. 内科領域の専門研修プログラムの統括責任者の承認が得られること．
5. 内科の専門研修で必要とされる修了要件 160 症例のうち 1/2 に相当する 80 症例を上限とする．病歴要約への適用も 1/2 に相当する 14 症例を上限とする．

別表 2 都立墨東病院施設群内科 東京医師アカデミー専門研修 週間予定表（例）

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="4">午前</td><td colspan="5">内科 朝カンファレンス＜各診療科（Subspecialty）＞</td><td rowspan="4">担当患者の病態に応じた診療／オンコール／日当直／講習会・学会参加 など</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td rowspan="3">入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td>内科外来診療（総合）</td><td>内科外来診療＜各診療科(Subspecialty)＞</td><td>内科外来診療＜各診療科(Subspecialty)＞</td></tr>
<tr><td>午後</td><td>入院患者診療</td><td>内科検査＜各診療科(Subspecialty)＞</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3"></td><td rowspan="2">内科合同カンファレンス</td><td>入院患者診療</td><td>抄読会</td><td rowspan="2">内科入院患者カンファレンス
＜各診療科(Subspecialty)＞</td><td rowspan="2">内科救急当番</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>地域参加型カンファレンスなど</td><td>講習会
ＣＰＣなど</td></tr>
<tr><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直など</td></tr>
</table>

★　都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム「４．専門知識・専門技能の習得計画」に従い、内科専門研修を実践します。

・上記はあくまでも例：概略です。

・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。

・入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます。

・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します。

・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

別添１

都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム連携施設情報

目次

1.　筑波大学附属病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
2.　筑波記念病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
3.　ＪＡとりで総合医療センター・・・・・・・・・・・・・　７
4.　千葉大学医学部附属病院・・・・・・・・・・・・・・・　９
5.　日本医科大学千葉北総病院・・・・・・・・・・・・・・　１１
6.　東京ベイ・浦安市川医療センター・・・・・・・・・・・　１２
7.　国立国府台医療センター・・・・・・・・・・・・・・・　１４
8.　東京科学大学病院　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
9.　東京大学医学部附属病院・・・・・・・・・・・・・・・　１９
10.　東京大学医科学研究所附属病院・・・・・・・・・・・・　２１
11.　同愛記念病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２
12.　青梅市立総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４
13.　榊原記念病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
14.　大森赤十字病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７
15.　国立がん研究センター中央病院・・・・・・・・・・・・　２９
16.　東京都立広尾病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２
17.　東京都立大久保病院・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
18.　東京都立大塚病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５
19.　東京都立駒込病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３７
20.　東京都立豊島病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９
21.　東京都立荏原病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４１
22.　東京都立多摩総合医療センター・・・・・・・・・・・・　４３
23.　東京都立東部地域病院・・・・・・・・・・・・・・・・　４５
24.　東京都立神経病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４６
25.　東京都立松沢病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４９
26.　東京都立多摩南部地域病院・・・・・・・・・・・・・・　５１
27.　横須賀共済病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３
28.　静岡県立静岡がんセンター・・・・・・・・・・・・・・　５６
29.　静岡てんかん・神経医療センター・・・・・・・・・・・　５７
30.　国立循環器病研究センター・・・・・・・・・・・・・・　５９
31.　川西市立総合医療センター・・・・・・・・・・・・・・　６０
32.　奈良県立医科大学附属病院・・・・・・・・・・・・・・　６３

33.　筑波メディカルセンター病院・・・・・・・・・・・・　６６
34.　豊橋ハートセンター・・・・・・・・・・・・・・・・・　６８
35.　国際医療福祉大学成田病院・・・・・・・・・・・・・・　７０
36.　国立精神・神経医療研究センター病院・・・・・・・・　７２
37.　横浜市立みなと赤十字病院・・・・・・・・・・・・・・　７４
38.　浦添総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７７
39.　飯塚病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８０
40.　亀田総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８３

１．　筑波大学附属病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
筑波大学部附属病院	809	217	11	102	81	12

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
筑波大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院として多くの研修医が在籍する県内唯一の医学部併設の大学病院かつ県内唯一の特定機能病院です. ・大学の図書館が利用可能な他，図書館が契約する英文ジャーナルを病棟でオンラインジャーナルとしてフルテキストで読むことができます. ・すべての病棟，研修医室にインターネット環境があります. ・産業医，総合臨床教育センター医師,所定の研修を修了した面談指導医がメンタルストレスに適切に対処します．また，院内には定期的に産業カウンセラー（外部）が面談を行っており，個人からの申し込みで面談が可能です. ・ハラスメントは大学全体各部署に専用窓口があります. ・現在院内に 250 人を超える専攻医・クリニカルフェローが研修していますが，約４割が女性です．　女性医師が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室（ロッカー室)，仮眠室，シャワー室，当直室などが整備されています．また，女性支援のため，総合臨床教育センターにキャリアコーディネーターがおり，出産・育児など女性のキャリアを支援する体制があります. ・大学敷地内に保育所があり利用可能です．7 時半～22 時まで対応しており，土日も可能です．(年度途中からの短期利用の場合要相談)また，院内には病児保育室があり 8 時 30 分～18 時位まで病児保育が可能です．職員用の搾乳室が整備されており，常時利用することが可能です.
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 102 名在籍しており，県内唯一の特定機能病院として各分野にスペシャリストが揃っております．従来より数多くの専門研修医を育成してきた実績 があり，指導体制が確立しております. ・連携施設として内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置される研修管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しております．各講

	習会はビデオ講義で受講することが可能であり，中途採用者も全員受講することが義務付けられております．各年間 1 回以上日本専門医機構認定講習を開催しております． ・内科の各分野は院内で複数診療科およびコメディカルスタッフが参加する合同カンファレンスを定期的に開催しており，専門性の高い診療を行っております．また，研修施設群合同カンファレンスや研究会，講演会を参画し，専攻医が受講できるようにしております． ・院内の全剖検症例は剖検検討会（CPC）で検討します．
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべてにおいて専門医が在籍し、専門性の高い診療経験が可能です。特に経験したい疾患があれば希望に応じて対応します。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	日本内科学会、各 Subspecialty 領域学会において数多くの演題を発表しております。 また、臨床研究、症例報告など多くの論文を発表しており、専攻医に積極的に関与してもらっております。
指導責任者	斉木　臣二
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 102 名，日本内科学会総合内科専門医 81 名，日本消化器病学会消化器専門医 13 名，日本循環器学会循環器専門医 17 名，日本腎臓病学会専門医　7 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 12 名，日本血液学会血液専門医 9 名，日本神経学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本リウマチ学会専門医 9 名，日本感染症学会専門医 6 名，がん薬物療法専門医　5 名，日本アレルギー学会専門医 9 名，日本肝臓学会専門医 6 名，日本老年医学会専門医 1 名，他
外来・入院患者数	（内科における）外来のべ人数　131932 人/年 退院患者のべ人数　6457 人/年　※2024 年度実績
経験できる疾患群	全ての領域での経験が可能。希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります。
経験できる技術･技能	特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です．技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します． 全ての領域での経験が可能．希望に応じて経験したい分野の疾患が経験できる診療科をローテーションすることになります．
経験できる地域医療・診療連携	特定機能病院として高度先進医療の経験が可能です．技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に経験したい技術・技能があれば希望に応じて対応します．
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設日本呼吸器学会認定施設

	日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定専門医研修施設日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度認定教育設日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修設 など．他にも多くの各学会の教育認定施設になっています.

２．　筑波記念病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
筑波記念病院	487	200	7	14	11	7

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
筑波記念病院	○	○	○	△	△	×	○	○	○	△	×	△	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	・筑波記念病院は基幹型臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・労務環境について内科研修委員会および労働安全管理委員会で管理します。 ・ハラスメント相談室が設置されており、随時相談を受け付けています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に付属保育園（アイビー保育園）があり夜間保育も可能です。
認定基準【整備基準 24】2）専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 14 名在籍しています。 ・内科専門研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設と協力して専攻医の研修支援体制を構築しています。 ・「医療安全」「感染防御」「医療倫理」に関する講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付

	け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応します。
認定基準【整備基準 24】3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。 ・専攻研修に必要な剖検（2025 年度実績 7 体）を行っている。
認定基準【整備基準 24】4）学術活動の環境	・臨床研究が可能な環境が整っています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で学会発表を行っています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し受託研究審査会を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	専門研修プログラム統括責任者　池澤和人 （IBD センター長・つくばトータルヘルスプラザ　マネージングディレクター） 【内科専門医へメッセージ】 当内科専門研修プログラムでは、指導医計 14 名（循環器：3 名、消化器：3 名、血液：4 名、呼吸器：1 名、脳神経：2 名、糖内：1 名）とともに、ガイドラインだけでは学び切れない臨床の醍醐味を経験することができます。 地域医療の最前線という活きた教科書の中で難症例に挑み、当院最大の強みであるリハビリテーション部門と連携しつつ、実践的な臨床センスを鍛え上げる環境のなかで、卓越した診断能力や患者さんの心を掴む人間力を養うこともできるでしょう。 指導医の適切なサポートのもと、最新の医療機器を駆使して臨床スキルを上させながら、学会発表や学術研究の機会も豊富に提供します。あなたの挑戦を全力でバックアップします。
指導医数(常勤医)	日本内科学会内科指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名
外来・入院患者数	外来（実数）　241,999 名 入院（実数）　143,957 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設(内科系)	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本神経学会教育施設日本集中治療医学会専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本不整脈心電学会経皮的カテーテル心筋焼灼術実施施設 日本不整脈心電学会経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術実施施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部ステントグラフト実施施設 日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本認知症学会認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設 日本炎症性腸疾患学会 IBD 指導施設 茨城県肝疾患専門医療機関 茨城県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関他

３．　ＪＡとりで総合医療センター

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
ＪＡとりで総合医療センター	414	179	8	8	12	6

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
ＪＡとりで総合医療センター	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	臨床研修指定病院である、研修医用の居室がある。医師室では個人で持ち込んだパソコンでも通信できるような体制をとっており、電子媒体での文献検索が出来るように病院で契約している。また紙媒体の文献検索もできるように図書室もある。安全衛生委員会が設置され、過剰時間外勤務者などへのメンタルヘルス管理、指導を行っている。女性医師に対しては女性用当直室

	（シャワー完備）や保育所を設置して、安心して勤務できるように配慮している。
認定基準【整備基準24】2）専門研修プログラムの環境	2021 年度は消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、神経内科、内分泌代謝内科、膠原病内科の常勤医がおり、全科にサブスペシャリティー専門医と総合内科専門医が在籍している。その他に非常勤として心療内科、総合内科医が勤務し、筑波大学の感染症専門医も週 1 回勤務して院内症例のコンサルテーションを引き受け、夕方に勉強会も開催している。年間の剖検数は 10 件前後で、年 6 回前後の CPC を開催している。これまで医療安全、感染の職員勉強会は年 2 回ずつ開催しており、専攻生も参加を義務付ける。今後は複数のプログラムに参加している専攻生が当院で研修を行うことになり、それぞれのプログラムの基幹施設との連携や合同カンファレンス、地域参加型のカンファレンス等も積極的に開催して、多角的な眼をもった内科専門医を養成する。
認定基準【整備基準24】3）診療経験の環境	内科 8 分野（内分泌と代謝を分けると 9 分野）で総合内科専門医、指導医が常勤して指導体制は整っているが、その他の分野の症例も多く、定められた症例数を当院だけで経験することは可能であるが、補完する形での関連施設における研修を予定しており、日本内科学会が要求する基準は十分にクリアできる。
認定基準【整備基準24】4）学術活動の環境	倫理委員会が設置されており、これまでも内科サブスペシャリティー科は、認可された臨床研究を精力的に行ってきており、今後も変わることはない。医師は年 1 回以上の学会発表が義務付けられており、日本内科学会関東地方会も毎回演題登録を行って発表している。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 ＪＡとりで総合医療センターは、茨城県取手・龍ヶ崎医療圏の基幹病院としての役割を果たすべく、東京医科歯科大学と連携をとりながら診療を行っている。内科系においては、すべてのサブスペシャリティー科で専門医を配置し、各診療科とも指導体制は整っている。また救急だけでなく、回復期、生活維持期の医療体制も充実しており、1 施設で全病期を理解することが出来る稀有な病院であると考えている。
指導医数(常勤医)	内科指導医 8 名 総合内科専門医 12 名
外来・入院患者数	外来患者数（2024 年度実績）281,886 人　内科系外来患者数 142,279 人 入院患者数（2024 年度実績）117,593 人　内科系入院患者数 60,338 人
経験できる疾患群	専門医がいない科においても症例は豊富にあり、非常勤医師等から専門的な教育を受けることができ、当院で日本内科学会が要求する症例は経験することができる。
経験できる技術･技能	症例の主治医、担当医となりながら、症例を受け持ち、検査、診断、治療を行いながら診療技術、技能を獲得することができると考えている。
経験できる地域医療・診療連携	病病連携、病診連携とも体制は整っており、さらに訪問看護ステーションも併設しているため、訪問診療も可能となっている。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会・認定医教育病院、日本循環器学会・認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション学会・認定研修関連施設、日本消化器病学会・専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会・認定指導施設、日本呼吸器学会・認定施設、日本腎臓学会・研修施設、日本高血圧学会・専門医認定施設、日本透析医学会・教育関連施設、日本神経学会・教育施設、日本認知症学会・教育施設、日本血液学会・認定血液研修施設、日本がん治療認定

	医機構・認定研修施設、日本脳卒中学会・認定研修教育病院、日本アレルギー学会・準教育施設、日本輸血・細胞治療学会 I&A 認定施設

４．　千葉大学医学部附属病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
千葉大学医学部附属病院	814	199	11	82	103	10

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
千葉大学医学部 附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があり、病院内で UpToDate などの医療情報サービスの他、多数の e ジャーナルを閲覧できます．敷地内に図書館があります。 ・労務環境が保障されています． ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります． ・ハラスメント委員会が整備されています． ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています． ・敷地内に保育所があり、病児保育も行っています。院内に学童保育園があります。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 82 名在籍しています．(2025 年 4 月現在) ・内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります． ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． ・CPC およびキャンサーボードを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています． ・70 疾患群のうちほぼ全ての疾患群について研修できます．

	専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な設備として、敷地内に図書館がある他、各診療科にも主要図書・雑誌が配架されています。多数の e ジャーナルの閲覧ができます。 ・臨床研究に関する倫理的な審査は倫理委員会を設置し，定期的に開催しています．倫理委員会のメンバーは内部職員および外部職員より構成されています。 ・専攻医は日本内科学会講演会あるいは同地方会の発表の他，内科関連サブスペシャリティ学会の総会，地方会の学会参加・発表を行います．また，症例報告，論文の執筆も可能です.
指導責任者	中島　裕史
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 82 名，日本内科学会総合内科専門医 105 名、日本消化器病学会消化器専門医 34 名，日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 23 名，日本内分泌学会専門医 18 名，日本腎臓病学会専門医 10 名，日本糖尿病学会専門医 20 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 31 名，日本血液学会血液専門医 13 名，日本神経学会神経内科専門医 20 名，日本アレルギー学会専門医（内科）7 名，日本リウマチ学会専門医 21 名，日本感染症学会専門医 8 名，日本老年医学会専門医 3 名、消化器内視鏡学会専門医 24 名、臨床腫瘍学会専門医 1 名、ほか（2025 年度）
外来・入院患者数	内科外来患者 170,367 名　　内科入院患者 7,180 名/年（2025 年度）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本老年医学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 ステントグラフト実施施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

	日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本神経学会専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設　など

５．　日本医科大学千葉北総病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
日本医科大学千葉北総病院	574	196	7	18	8	5

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
日本医科大学 千葉北総病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	△	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	･千葉県印西市にある 574 床の私立医科大学付属病院です。 ･初期臨床研修制度の帰還形研修指定病院であり、内科専門医研修のための基幹施設でもあります。 ･研修に必要な図書室、自習室とインターネット環境があります。 ･当院後期研修医と同等の労務環境が保証されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室が整備されています。 ･敷地内に保育施設があり、事前登録により利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 18 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕

	を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･施設実地調査に対応可能な体制があります。 ･プログラムに指導医の在籍していない施設（特別連携施設：診療所や過疎地病院、あるいは研究施設等を想定）での専門研修が含まれる場合には、指導医がその指導を行えるような工夫をしています。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野の専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･2018 年度の実績では、70 疾患群のうち 62 の疾患群について研修可能でした。 ･専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会にて発表を行っています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2018 年度実績 12 回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2018 年度実績 11 回)しています。 ･専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。
指導責任者	岡島史宜
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 18 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名，日本消化器学会専門医 2 名，日本循環器学会専門医 6 名，日本内分泌学会専門医 2 名，日本腎臓学会専門医 1 名，日本呼吸器学会専門医 1 名，日本血液学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名，日本肝臓学会専門医 1 名， 他
外来・入院患者数	外来患者 103358 人/年　入院患者数 5231 人/年
経験できる疾患群	総合内科・循環器・消化器・内分泌・代謝・腎臓・呼吸器・血液・神経・救急の 10 分野、62 疾患群
経験できる技術･技能	･技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 ･内科初診・救急当番において、１次・２次救急患者の治療および初診外来での診療を指導医の監督下で経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本心血管インターベンション学会研修施設、日本てんかん学会研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝化認定教育施設、日本糖尿病学会教育認定施設、日本動脈硬化学会専門医認定教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設

６．　東京ベイ・浦安市川医療センター

表１　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京ベイ・浦安市川医療センター	344	154	9	16	7	4

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京ベイ・浦安市川医療センター	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・東京ベイ・浦安市川医療センター専攻医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります. ・ハラスメント委員会が東京ベイ・浦安市川医療センターに整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準【整備基準 24】2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 16 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と医師・研修管理室を設置しています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し（2025 年度実績 4 回），専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に医師・研修管理室が対応します.
認定基準【整備基準 24】3）診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます.
認定基準【整備基準 24】4）学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･倫理審査委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 12 回、審査 115 件）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を

	しています.
指導責任者	江原　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 東京ベイ・浦安市川医療センターは千葉県東葛南部地区の中心的な急性期病院です. 年間救急搬送受け入れ台数は千葉県内でもトップレベルであり，豊富な急性期疾患かつ市中病院ならではのコモンディジーズを幅広く経験できます. 患者層も若年から超高齢者まで幅広く様々です. 当センターでは総合内科チームが全ての内科系入院症例を担当し，症例ごとに各専門科がコンサルタントとしてチームに加わる体制をとっています。初期・後期・若手指導医の屋根瓦式の教育体制に加え、さらに各チームにそれぞれ総合内科指導医と各専門科指導医が並列で加わる 2 人指導医体制により，幅広い視野と深い考察という非常にバランスの取れた指導を受けることができます. またこの体制により総合内科ローテートでも各科サブスペシャリティ研修と比較して遜色のない、十分な症例経験が可能です。また専門科研修では更にサブスペシャリティに特化した研修(手技やコンサルト業務等)を行います。 設立当初から幅広く質の高い内科研修を行うことを目的に構築された、自信を持ってお勧めできる研修体制です。皆様のご応募をお待ちしております。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 16 名，日本内科学会総合内科専門医 7 名, 日本循環器学会循環器専門医 8 名，日本心血管インターベンション治療学会専門医 3 名，日本消化器病学会専門医 1 名，日本消化器内視鏡学会専門医 3 名，日本消化管学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本腎臓学会専門医 5 名，日本透析医学会専門医 2 名，日本救急医学会救急科専門医 8 名，日本集中治療医学会専門医 5 名，日本リウマチ学会専門医 1 名，日本感染症学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者　12,375 名（1 ヶ月平均）　入院患者　8471 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　日本不整脈心電学会不整脈専門研修施設　日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設　日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本集中治療医学会研修施設　日本リウマチ学会教育施設　日本感染症学会研修施設　日本緩和医療学会研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設など

7．　国立国府台医療センター

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
国立国府台医療センター	417	100	11	19	12	2

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
国立国府台医療センター	○	**○**	○	○	○	○	**○**	△	△	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です．・研修に必要な図書，インターネット環境（医中誌，電子ジャーナル，Up To Date など）があります． ・常勤医師として労務環境が保障されています． ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部管理課長担当）があります． ・「セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程」が定められており，ハラスメント防止対策委員会も院内に整備されています． ・女性専攻医が安心して勤務できるように，シャワー室，更衣室，当直室などが整備されています． ・敷地内に院内保育所（0 から 6 歳）があり，利用可能です．
認定基準【整備基準 24】2）専門研修プログラムの環境	・新制度における内科学会指導医は 19 名在籍しています（下記）． ・内科専攻医研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります． ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します． ・医療倫理・臨床研究講習会・医療安全（年 2 回は必修）・感染対策（年 2 回は必修）・NST 講習会（年 2 回）を定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． ・CPC を定期的に開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査には医療教育部門が対応します．
認定基準【整備基準 24】3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち血液内科と神経内科を除く全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）． ・70 疾患群のうち大部分の疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）． ・専門研修に必要な内科の剖検を行っています．
認定基準【整備基準 24】4）学術活動の環境	・臨床研究に必要なインターネット環境（医中誌、電子ジャーナル、Up To Date など）や臨床研究支援室や図書などを整備しています． ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています．

	・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年 3 演題以上の学会発表をしています. ・臨床研究治験センター，臨床研究支援室などがあり，レジデントにも，症例報告だけでなく，臨床研究にも積極的に取り組んでもらって，糖尿病学会や消化器病学会をはじめとする国内学会総会や国際学会で発表し，また英語論文の指導も行っています.
指導責任者	酒匂　赤人 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は中規模病院であり，内科の全領域の常勤専門医がいるわけではありませんが，研修医やレジデントの教育に力を入れており，十分な臨床経験を積み，内科認定医，総合内科専門医，各内科系専門医などがとれるように手厚い指導を行っています. 内科は大きく３つに分かれ，肝炎・免疫研究センターを併設し，研究・診療体制の充実した消化器・肝臓内科，摂食障害や心身症を中心とした診療で我が国有数の心療内科，各内科系診療科が垣根を低くして相互に連携して総合的に診療する統合内科があります. 前身が精神・神経医療センターだったこともあり，現在も精神科診療に強く，今後も本邦での重要性が増していく精神疾患を合併した内科疾患のマネージメントにも習熟することができます. 国立研究開発法人であることから，研究のリソースは充実しており，また若手医師の臨床研究を積極的にすすめているため，指導を受けて学会発表や論文作成をする機会も十分にあります.
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医(新制度) 19 名，日本内科学会総合内科専門医 12 名，日本消化器病学会専門医 10 名，日本肝臓学会専門医 6 名，日本循環器学会専門医 1 名，日本内分泌学会専門医 0 名，日本糖尿病学会専門医 5 名，日本腎臓学会専門医 0 名， 日本呼吸器学会専門医 2 名，日本血液学会専門医 0 名，日本神経学会専門医 0 名，日本アレルギー学会専門医 1 名，日本リウマチ学会専門医 2 名，日本感染症学会専門医 1 名，日本老年医学会専門医 2 名，日本救急医学会専門医 0 名、消化器内視鏡専門医 6 名
外来・入院患者数	内科外来患者 5413 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者 158 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 分野，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設(内科系)	日本内科学会新専門医制度基幹施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化管学会認定胃腸科指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本呼吸器学会専門医制度関連施設、日本循環器学会循環器専門医研修関連施設、日本心療内科学会専門医研修基幹施設、日本心身医学会研修施設、日本感染症学会研修施設、日本動脈硬化学会認定教育病院、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設、日本老年医学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本脳卒中学会一次脳卒中センター、日本脳卒中学会専門医

	認定研修教育施設、日本整形外科学会研修施設、日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設、日本眼科学会研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設、日本精神科看護協会精神科認定看護師制度指定実習施設、日本睡眠学会睡眠医療認定医療機関、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関、日本臨床細胞学会教育研修認定施設、日本病理学会研修認定施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本麻酔科学会麻酔科認定病院、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本医学放射線学会画像診断管理認証施設

８．　東京科学大学病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京科学大学病院	753	254	11	128	77	10

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京科学大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 **1)専攻医の環境**	・臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本学の就業規則等に従います。 ・メンタルストレスに適切に対処する部門として保健管理センターが設置されています。 ・ハラスメント防止対策委員会が設置され、各部に苦情相談員が置かれています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・学内の保育園（わくわく保育園）が利用可能です。

認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 128 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。(2025 年度開催実績 6 回内科系のみ) ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応します。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	・東京科学大学大学院では内科系診療科に関連する講座が開設され、附属機関に難治疾患研究所も設置されていて臨床研究が可能です。 ・臨床倫理委員会が設置されています。 ・臨床試験管理センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 10 題の学会発表を行っています。(2022 年度実績) 内科系学会等で年間 261 題の学会発表を行っています。(2022 年度実績)
指導責任者	統括責任者　保田　晋助教授
指導医数(常勤医)	内科指導医数 128 名 （内：総合内科専門医 77 名）
外来・入院患者数	外来患者数：474,761 人（2025 年度　延数） 入院患者数：428,422 人（2025 年度　延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設

	日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本老年医学会認定施設 日本老年精神医学会認定施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本神経学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 認知症学会専門医教育施設

9． 東京大学医学部附属病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京大学医学部附属病院	1208	334	12	161	113	13

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 **1)専攻医の環境**	・臨床研修制度における基幹型研修病院です。 ・専門研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・東京大学医学部附属病院として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対応する部署があります。 ・敷地内にキャンパス内保育施設があり、利用可能です。

認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	・研修委員会を設置して、施設内の専攻医の専門研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	・内科全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	・内科系学会で年間で 400 件以上の学会発表をしています。そのうち、臨床研修医と内科専攻医が筆頭演者の発表が 70 件以上あります。
指導責任者	藤尾 圭志（統括責任者・内科部門長）
指導医数(常勤医)	161 人
外来・入院患者数	外来患者数：　239,032　人/年 入院患者数：　112,698　人/年
経験できる疾患群	2024 年度以降に専門研修を開始した新基準適用の専攻医は、3 年で研修を修了予定の場合、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を確実に経験できる研修とするとともに、指導医による形成的な指導を通じて，29 症例の病歴要約を作成します。 旧基準適用の専攻医は、3 年での内科専門研修修了時に、通算で 56 疾患群，160 症例以上を確実に経験できる研修とし、29 症例の病歴要約を作成します。
経験できる技術･技能	（3 年間の場合） ○専攻医 1 年目 ・疾患の診断と治療に必要な医療面接，身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。 ○専攻医 2 年目 ・疾患の診断と治療に必要な医療面接，身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。 ○専攻医 3 年目 疾患の診断と治療に必要な医療面接，身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。 ○専門研修期間を通じて，初診を含む外来（通算で，1 回／週を 6 ヶ月以上） と 当直を経験します。 ○臨床現場を離れた学習として，内科領域の救急，最新の病態・治療法について専攻医対象のセミナーが開催されており，それに参加し学習します。JMECC の履修は必須です。内科系学術集会への参加，発表も推奨されます。また，内科系学会が行っているセミナーのオンデマンドの配信等を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜視聴ができるよう設備を準備します。また，日本内科学会のセルフトレーニング問題を解き，内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。定期的に指導医と専攻医が面談を行い，自己学習結果を指導医が評価しフィードバックを行います。
経験できる地域医療・診療連携	連携施設である地域の中核となる総合病院での研修を通じ、内科専門医に求められる役割を実践することが可能です。また、連携先の医療レベル維持にも貢献できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学

	会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学血液研修施設、日本神経学会教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本老年医学会認定教育施設、日本感染症学会研修施設、日本心身医学会認定研修診療施設　など

１０．東京大学医科学研究所附属病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京大学医科学研究所 附属病院	122	87	4	16	22	11

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京大学医科学研究所附属病院	△	○	×	△	△	×	×	○	×	×	○	○	×

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医、なんでも相談室）があります。 ・東京大学ハラスメント相談所が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医が 16 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研究倫理研修会、臨床試験研修会を定期的に開催しています。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、感染症、アレルギーおよび膠原病、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	四柳　宏 【内科専攻医へのメッセージ】 東京大学医科学研究所附属病院は感染症、膠原病、血液疾患に関して専門的な診療を行っている病院です。医科学研究所の附属病院という性格をもち、新しい医療の開発を目指した臨床研究や先端医療の開発にも力を入れています。小規模病院の特徴を活かして各科の連携も緊密であり、患者様に質の高い医療を提供しています。アカデミックな雰囲気に触れながら、専門的な診療にじっくりと取り組んでみたい内科専攻医の方々を歓迎いたします。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医　16 名、日本内科学会総合内科専門医　 22 名 日本血液学会専門医　14 名、日本消化器病学会消化器専門医　4 名、 日本感染症学会　3 名、日本リウマチ学会専門医　3 名、 日本肝臓学会専門医　2 名、日本アレルギー学会専門医　1 名、 日本内分泌学会専門医　1 名、日本糖尿病学会専門医　1 名
外来・入院患者数	外来患者数　　96.5 人（1 日あたり） 入院患者数　　43.4 人（1 日あたり）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち、「血液」「感染症」「膠原病および類縁疾患」において十分な症例の経験ができ、それに付随する疾患に関しても経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	近隣のクリニックからの紹介症例や、総合病院との診療連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本血液学会認定研修施設、日本リウマチ学会認定教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本肝臓学会認定施設

１１．同愛記念病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
同愛記念病院	373	139	7	8	6	17

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
同愛記念病院	△	△	△	△	○	○	△	△	△	△	△	△	△

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	臨床研修指定病院である。 研修に必要なインターネット環境が整備されている。 適切な労務環境が保障されている。 メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。 ハラスメント委員会が整備されている。 女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室、シャワー室、当直室が配慮されている。 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2）専門研修プログラムの環境	指導医は 8 名在籍している。 研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる。 医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 CPC を定期的に開催（2015 年度は 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 地域参加型のカンファレンス（墨田症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。
認定基準【整備基準 24】3）診療経験の環境	代謝領域については、糖尿病教育入院が常時行われており、5 疾患群すべてを研修できる。内分泌領域については、主に甲状腺疾患、副腎疾患の研修が可能である。腎臓領域においては 7 疾患群のうち 6 疾患群（間質性腎炎を除く）において研修が可能である。
認定基準【整備基準 24】4）学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室などを整備している。 倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 治験委員会を設置し、定期的に開催している。
指導責任者	三宅敦子
指導医数(常勤医)	日本内科学会研修指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医 1 名
外来・入院患者数	糖尿病代謝内科として 外来患者　1,064 名、入院患者　190 名 腎臓内科　外来患者　136 名 （2016 年 1 月実績　腎臓内科については 4 月から常勤医が着任している）
経験できる疾患群	代謝領域の 5 疾患群すべて、および内分泌領域では主に甲状腺疾患、副腎疾患を研修できる。腎臓領域に関してはすべてを研修できる。

経験できる技術･技能	糖尿病患者における血糖管理、合併症管理、患者教育、周術期血糖管理、妊娠中の血糖管理、ケトアシドーシスの管理、内分泌機能試験 慢性腎臓病患者の教育・管理、血液透析および腹膜透析の導入・管理、経皮的シャント血管形成術、腎生検、腎炎およびネフローゼ症候群の診断・加療、急性腎障害の管理、血漿交換やエンドトキシン吸着療法などの特殊な血液浄化療法
経験できる地域医療・診療連携	地域参加型のカンファレンス（墨田症例検討会）を通し、地域に根差した医療の在り方を学ぶことができる
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会教育関連施設

１２．青梅市立総合病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
青梅市立総合病院	562	270	8	21	16	13

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
青梅市立総合病院	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・青梅市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が青梅市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室当直室が整備されています。 ・隣接する敷地に病院保育所（うめっこはうす）があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2）専門研修プログラムの環境	・指導医は指導医は 21 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。また、研修施設群で行われる講習会を周知し、受講を進めます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、

	そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（西多摩地域救急医療合同カンファレンス、西多摩医師会共催内科症例勉強会、循環器研修会、呼吸器研究会、消化器病研究会、糖尿病内分泌研究会、脳卒中連携研究会など；2015 年実績 21 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2013 年 14 体、2014 年度 18 体、2015 年度 13 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 7 演題の学会発表をしています。(2015 年度実績) ・詳しくは年報を参照ください。
指導責任者	指導責任者名　大友　建一郎 青梅市立総合病院は、東京都西多摩医療圏の中心的な急性期、３次救急病院です。山岳部を抱え、核家族化による高齢者一人身世帯、都区内の後方病院、介護施設が多く、超高齢化する地方と同様の問題を抱え、急性期医療を行うと同時に地域医療を行っています。
指導医数(常勤医)	内科指導医数：22 名　＊非常勤含む 内科指導医数：21 名　＊常勤医のみ 総合内科専門医数：16 名
外来・入院患者数	外来患者数：55,015 名・内科系外来患者数：19,606 名（2015 年実績） 入院患者数：11,451 名・内科系入院患者数： 5,446 名（2015 年実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本救急医学会指導医指定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本血液学会日程血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会准教育施設、日本認知症学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設など

１３．榊原記念病院

表１　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
榊原記念病院	307	228	1	18	19	1

表２　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
榊原記念病院	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	×	△	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表３　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所・病児保育があります。 ・病院 6 階に専攻医宿舎を完備しており、独身者(単身者)であれば利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2）専門研修プログラムの環境	・循環器内科の研修では CCU、心臓カテーテル検査・治療(PCI、末梢血管インターベンション)、心臓電気生理検査・治療（カテーテルアブレーション、植込みデバイス)、心エコー検査、放射線画像診断、心臓リハビリ、成人先天性心疾患を研修できます。また、各種回診、各種カンファレンス（内科カンファレンス、心エコーカンファレンス、手術検討、シネ検討会、不整脈検討会、ブレインハートカンファレンス） 、レジデント教育講演、外部講師による定例講演会などが行われます。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催(2020 年実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス「神明台ハートセミナー」を定期的に開催し専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準【整備基準 24】3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準 24】4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を行っています。 卒後 3-6 年の内科専門研修中の医師が筆頭演者の内科系学会での発表数は、2023 年度は 5 件あり、学術活動をより多く経験できるよう指導しています。
指導責任者	七里　守
指導医数(常勤医)	18 名
外来・入院患者数	外来：68,089 名　入院：9,872 名　(2024 年度)
経験できる疾患群	きわめてまれな疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実施の診療に基づきながら幅広く経験することが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験出来ます。
学会認定施設(内科系)	日本循環器学会認定 循環器専門医研修施設 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会認定 経カテーテル的大動脈弁置換術 指導施設 日本内科学会認定医制度 教育関連ー特殊施設 日本不整脈心電学会認定 不整脈専門医 研修施設 日本核医学会専門医 教育病院 日本集中治療医学会認定 日本集中治療医学会専門医 研修施設 日本成人先天性心疾患学会認定 成人先天性心疾患専門医 総合修練施設 日本心エコー図学会認定心エコー図専門医制度 研修関連施設 日本心臓リハビリテーション学会認定 心臓リハビリテーション研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定 研修施設 日本医学放射線学会が定める規定に基づく 放射線科専門医 特殊修練機関 日本超音波医学会認定 超音波専門医 基幹施設 日本動脈硬化学会専門医制度 教育病院 日本脈管学会認定 研修指定施設 公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線科専門医特殊修練機関 など

１４．大森赤十字病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
大森赤十字病院	344	172	7	18	16	7

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
大森赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	· 初期臨床研修基幹型研修指定病院である。 · 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 · 大森赤十字病院　常勤医師として労務環境が保障されている。 · メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）がある。 · ハラスメント防止に対する規程及び委員会が整備されている。 ·　女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	· 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 · 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 · CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 · 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 7 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究部門を設置し、臨床研究発表会や講演会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績　内科系学会 28 演題）をしています。
指導責任者	北里　博二 【内科専攻医へのメッセージ】 大森赤十字病院は地域に密着した急性期病院で、近隣の施設と連携した内科

	専門研修を行います。いわゆる common disease はもちろん、重篤な疾患でも地域で治療を完結できるようにレベルの高い診療を目指しております。当院の特徴として他職種とのチーム医療を基本としており、医師はじめ多くのスタッフでチーム大森を形成しています。私たちは、専攻医の皆様が、「将来当院で研修を行ったことを自慢できるような病院」を目指して日々研鑽を積んでいます。是非、私たちのチームの一員になってともに学んでいきましょう。
指導医数(常勤医)	・指導医が 18 名在籍している（下記)。 日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会専門医、日本超音波医学会認定超音波専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医、日本血液学会認定指導医・専門医、日本腎臓学会認定腎臓専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本高血圧学会専門医・指導医、日本神経学会専門医・指導医、日本頭痛学会専門医、日本プライマリケア連合学会指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本老年医学会専門医・指導医　ほか
外来・入院患者数	外来患者 598.0 名／日　　入院患者 247.5 名／日（2022 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会教育病院、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本神経学会教育施設、日本老年医学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会関連施設、日本透析医学会教育関連施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設、日本超音波医学会専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本消化管学会胃腸科指導施設など

１５．国立がん研究センター中央病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
国立がん研究センター中央病院	578	358	14	32	45	11

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
国立がん研究センター中央病院	△	○	△	△	△	×	○	○	×	×	△	×	×

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·国立研究開発法人非常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課労務係）があります. ·各種ハラスメント委員会が国立研究開発法人に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	·内科学会指導医は 32 名在籍しています.（2026 年 3 月現在） ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC　を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2024 年度　多地点合同メディカル・カンファレンス 17 回）を定期的に開催し，受講のための時間的余裕を与えます.
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，呼吸器，血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 11 体）を行っています.
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	·内科系学会で多数の発表を行っています.（2024 年度実績 245 件） ·専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています.
指導責任者	堀之内　秀仁 【内科専攻医へのメッセージ】 日本屈指のがん専門病院において，がんの診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療，インターベンショナルラジオロジーに加え，在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます.また，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます. 国立がん研究センター中央

	病院での研修を活かし，今後さらに重要性が増すがん診療含め，幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい.
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 32 名 日本内科学会総合内科専門医 45 名（2026 年 3 月現在）
外来・入院患者数	総外来患者(延数）379,849 名 新入院患者数（延数）19,554 名
経験できる疾患群	1.研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，全ての固形癌，血液腫瘍の内科治療を経験でき，付随するオンコロジーエマージェンシー，緩和ケア治療，終末期医療等についても経験できます. 2.研修手帳の一部の疾患を除き，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です.
経験できる技術･技能	1.日本屈指のがん専門病院において，がんの診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療，インターベンショナルラジオロジーなど，幅広いがん診療を経験できます. 2.技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます.
学会認定施設(内科系)	日本内科学会 日本緩和医療学会 日本血液学会 日本呼吸器学会 日本呼吸器内視鏡学会 日本産科婦人科学会 日本小児血液・がん学会 日本消化管学会 日本消化器内視鏡学会 日本カプセル内視鏡学会 日本消化器病学会 日本総合病院精神医学会 日本胆道学会 日本超音波医学会 日本乳癌学会 日本臨床腫瘍学会　など

１６．東京都立広尾病院

表１　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立広尾病院	408	125	10	17	15	5

表２　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立広尾病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表３　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署がある。(庶務課担当職員) ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように､休憩室､更衣室､仮眠室､シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が １７名在籍している。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ･医療倫理（1 回）･医療安全（４回）･感染対策（2 回）講習会を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(4 回)し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。２０２６年度より悉皆受講となる。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（4 回）し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度：3 回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。
認定基準【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器､循環器、内分泌､代謝､腎臓､呼吸器､血液、神経､アレルギー､感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 また、剖検例についても定常的に専門研修可能である。 （2025 年度：5 症例）

認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表を予定している。内科系学会の発表総数は 52 演題。卒後３～６年目の内科専門研修（旧制度含む）中の医師が筆頭の演題は 13 演題。
指導責任者	田島　真人 【内科専攻医へのメッセージ】　広尾病院は東京都区西南部医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また東京都に二つある基幹災害拠点病院の一つでもあり、災害に係る研修も可能です。さらに東京都島嶼部（大島、八丈島をはじめとする島々）の後方支援病院であり、島嶼医療に関わる研修を行うことも可能です。また 2023 年度より病院総合診療科が新設され、同科の研修も行うことが可能です。
指導医数(常勤医)	日本消化器病学会専門医 1 名　日本肝臓学会専門医　0 名 日本循環器学会専門医　9 名　日本内分泌学会専門医　3 名 日本糖尿病学会専門医　3 名　日本腎臓病学会専門医　3 名 日本呼吸器学会専門医　2 名　日本血液学会専門医　0 名 日本神経学会専門医　2 名　日本アレルギー学会専門　0 名 日本リウマチ学会専門医 1 名　日本感染症学会専門医　1 名 日本老年医学会専門医　0 名 （2025 年度末時点）
外来・入院患者数	外来患者 51,068 名 入院患者　33,101 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて､連携施設と協力し研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域､70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を､実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく､高齢者医療に対応した地域に根ざした医療､病診･病病連携、東京都島嶼部の後方病院として島嶼医療機関との連携も経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本神経学会准教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本救急医学会指導医専門医指定施設設　ほか

１７．東京都立大久保病院

表１　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立大久保病院	304	140	6	15	14	7

表２　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立大久保病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	×	△	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表３　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。・東京都立病院機構非常勤職員として労務環境が保障されている。・メンタルヘルスに適切に対処する研修がある。・ハラスメント研修を実施している。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 15 名在籍している。 ・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ･医療倫理・医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績　医療安全 15 回、感染対策 11 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催(内科、整形外科、外科、婦人科、コメディカル、看護部等)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病、血液を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を行っている。その他海外も含め積極的に発表の機会を与える。
指導責任者	副院長　鈴木　和仁

指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会認定専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本不整脈学会日本心電学会認定不整脈専門 4 名、日本腎臓病学会専門医 9 名、日本透析医学会透析専門医 9 名、日本移植学会移植認定医 1 名、日本神経学会認定神経内科専門医２名、日本脳卒中学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医３名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 55,236 名　入院患者 5,813 名(　(2025 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、連携施設と協力し研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。急性期医療だけでなく、腎移植や超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診･病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院／日本循環器学会認定循環器専門医研修施設／日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設／日本消化器病学会専門医制度認定施設／日本肝臓病学会認定施設／日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設／日本糖尿病学会認定教育施設／日本呼吸器学会認定関連施設／日本透析医学会専門医制度認定施設／日本腎臓学会研修施設／日本神経学会准教育施設／日本臨床腫瘍学会認定研修施設／日本がん治療認定医機構認定研修施設ほか

１８．東京都立大塚病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立大塚病院	502	149	8	19	10	11

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立大塚病院	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·東京都非常勤医員として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（庶務課職員担当）があります. ·ハラスメント委員会が東京都庁に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です
認定基準【整備基準 24】2）専門研修プログラムの環境	·指導医は 19 名在籍しています（下記）. ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（内科部長、腎臓内科医長）,ともに総合内科専門医かつ指導医）;専門医研修プログラム準備委員会から 2017 年度中に移行予定）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置して臨床研修委員会の下部組織とします. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績：医療安全 12 回，感染対策 2 回，医療倫理は 2016 年度に開催）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績：医療連携医科講演会 5 回，救急合同症例検討会 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（開催準備中）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会（2017-2020 年度予定）が対応します. ·特別連携施設（都立松沢病院、都立神経病院、東京都島嶼等）の研修では，電話やメールでの面談・Web カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準【整備基準 24】3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 11 体，2015 年度 11 体）を行っています.
認定基準【整備基準 24】4）学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2015 年度実績 10 回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 10 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 6，2015 年度実績 0）を予定しています.

指導責任者	藤江　俊秀 【内科専攻医へのメッセージ】 都立大塚病院は，東京都区西北部医療圏の中心的な急性期病院であり，区西北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本肝臓学会専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,027 名（1 ヶ月平均）　入院患者 213 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析学会教育関連施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本神経学会専門医准教育施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設など

１９．東京都立駒込病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立駒込病院	815	302	11	34	30	7

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立駒込病院	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	△

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。・東京都非常勤医師として労務環境が保障されている。・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課)がある。・ハラスメント相談窓口が庶務課に整備されている。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 34 名在籍している。・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(2026 年度実績：5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準 24】3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症の 9 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準【整備基準 24】4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2025 年度実績：関東地方会 8 演題)をしている。
指導責任者	岡本　朋 【内科専攻医へのメッセージ】東京都立駒込病院は総合基盤を備えたがんと感染症を重視した病院であるとともに、東京都区中央部の２次救急病院でもあります。都立駒込病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの達携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 34 名、日本内科学会総合内科専門医 30 名、日本消化器病学会専門医 12 名・指導医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 13 名・指導医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本腎臓学会専門医 3 名・指導医 3 名、日本透析医学会専門医 3 名・指導医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名・指導医 4 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 5 名・指導医 2 名、日本血液学会血液専門 9 名・指導医 5 名、日本リウマチ学会専門医 3 名・指導医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本神経学会専門医 3 名・指導医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 4 名・指導医 2 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名・指導医 1 名、内分泌・糖尿病領域専門医 1 名・指導医 2 名、がん薬物療法専門医 8 名・指導医 4 名、日本プライマリケア関連学会専門医兼指導医 1 名、日本大腸肛門学会専門医 4 名・指導医 2 名、日本消化管学会専門医 3 名・指導医 2 名、日本胆道学会指導医 6 名、日本膵臓学会指導医 6 名、日本遺伝性腫瘍学会専門医 16 名・指導医 2 名、日本感染症学会専門医 5 名・指導医 4 名、日本エイズ学会指導医 4 名、日本化学療法学会指導医 1 名、日本臨床腫瘍学会専門医 10 名（がん薬物療法専門医含む）・指導医 6 名

外来・入院患者数	外来患者 120,768 名(R7 年度年間) 入院患者 95,561 名(R7 年度年間)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診･病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定内科専門医教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本プライマリケア関連学会認定医研修施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本胆道学会指導施設 日本臨床腫瘍学会専門医認定研修施設

２０．東京都立豊島病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立豊島病院	411	128	8	13	10	10

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立豊島病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	**・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。** **・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。** **・東京都立病院機構任期付病院職員として労務環境が保障されている。** **・メンタルストレスやハラスメントに適切に対処する部署(職員相談室)がある。病院内相談窓口のほか、東京都立病院機構のハラスメント相談窓口を利用可能。** **・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている.**
認定基準【整備基準 24】2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 13 名在籍している(下記) ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績：医療倫理２回，医療安全２回，感染対策５回)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス(2024 年度実績１回)を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ・ＣＰＣを定期的に開催(2024 年度実績６回)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準 24】3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している.
認定基準【整備基準 24】4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計６演題以上の学会発表(2024 年度実績３演題)を予定している.
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】藤ヶ﨑　浩人 地方独立行政法人東京都立病院機構都立豊島病院は東京都区西北部の中心的な急性期病院の一つです。近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設と共同して内科専門研修を行い、地域医療に貢献できる内科専門医を育成します。当院の研修の特徴は、他施設に比べ技術習得の機会が多いため今後のサブスペシャルティを目指す上で有利です。また看護師、検査技師等のコメディカル、各科、各部署との連携が取りやすく医療が円滑に行われています。主担当医として入院から退院まで自主性が求められますが、 必要に応じて上級医が細かく指導し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医に成長することが可能です。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 16 名，日本内科学会総合内科専門医 12 名，日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本肝臓学会専門医 6 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本内分泌学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 1 名，日本神経学会専門医 1 名，日本感染症学会専門医 1 名
JMECC 開催	2024 年度実績１回
外来・入院患者数	2024 年度外来患者 1 ヶ月平均　総 12,856 名（うち内科 3,247 名） 2024 年度入院患者 1 ヶ月平均　総 7,191 名（うち内科 2,068 名）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて､研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域､70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を､実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく､超高齢社会に対応した地域に根ざした医療､病診･病病連携なども経験できます。

学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本感染症学会研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本輸血細胞治療学会Ｉ＆Ａ認証施設、東京都区部災害時透析医療ネットワーク正会員施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本神経学会専門医制度准教育施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本老年医学会認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本透析医学会専門医制度教育関連施設、日本超音波医学会専門医研修施設

２１．東京都立荏原病院

表１　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立荏原病院	461	171	7	10	6	7

表２　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立荏原病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表３　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)がある。 ・地方独立行政法人東京都立病院機構では、機構事務局、病院において、それぞれセクシュアル・ハラスメント相談窓口を設置している。また、都立病院を管轄している機構事務局では、セクシュアル・ハラスメント相談室を設置しており、病院におけるセクハラ・パワハラに関する相談・苦情に対応している。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように､休憩室､更衣室､仮眠室､シャワー室、当直室が整備されている。 ・保育料助成制度があり利用可能である。

認定基準【整備基準24】2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 10 名在籍している。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(副院長)、プログラム管理者(診療部長)、専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている各研修委員会との連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する。
認定基準【整備基準24】3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 8 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。
認定基準【整備基準24】4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	水谷　勝 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都立荏原病院は、急性期を主体とし慢性期までの患者を扱う区南部医療圏の中心的な病院です。当院は基幹病院として、都立病院で連携病院群を形成し、内科専門医の育成にあたります。主担当医としてさまざまな症例を経験し、初診から退院、外来フォローまでを経験していきます。診断と治療を中心とし、患者対応を通じて種々の事態に対応できる内科専門医を育成していきます。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本緩和医療学会緩和医療専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者　2197 名(1 ケ月平均)　　入院患者　2053 名(1 ケ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。経験が困難な症例については連携施設での研修が可能です（東京都立墨東病院、東京都立大塚病院、東京都立駒込病院、東京都立大久保病院、東邦大学医療センター大森病院)。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本神経学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本超音波学会認定専門医研修施設　　など

２２．東京都立多摩総合医療センター

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立多摩総合医療 センター	789	283	12	41	53	17

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立多摩総合 医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課医事課、職員担当、医局役員)がある。 ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように､休憩室､更衣室､仮眠室､シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 41 名在籍している。(2026 年 3 月) ・内科専門研修プログラム管理委員会(内科系副院長、プログラム統括責任者（内科系診療科部長 1 名） ・副プログラム統括責任者(内科系診療科医長各 2 名)、基幹施設内科専門研修委員長(内科系診療科部医長 1 名）（ともに総合内科専門医かつ指導医)） ・内科専門研修プログラム委員会は､基幹施設､連携施設に設置されている研修 委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を臨床研修管理委員会に設置する。

	・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績 5 回)し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 10 回)し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・多摩地区の連携施設勤務医も参加する地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2025 年度開催実績 1 回:受講者 12 名)を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する。 ・特別連携施設島嶼診療所の専門研修では､電話やメールでの面談･Web 会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。 ・その結果 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2020 年度実績 29 体､2021 年度 28 体、2022 年度 25 体、2023 年度 31 体、2024 年度 30 体、2025 年度 17 体)を行っている。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・倫理委員会を設置し､定期的に開催(2021 年度実績 12 回)している。 ・治験管理室を設置し､定期的に受託研究審査会を開催(2020 年度実績 11 回)している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	佐藤　文紀 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都多摩地区の中心的な急性期第三次医療機関です。卓越した指導医陣のもと、内科の全領域で豊富な症例を経験できます。東京 ER（一次～三次救急）での救急医療研修（必修）と合わせて、総合診療基盤と知識技能を有した内科専門医を目指してください。新制度では、全国の連携施設や特別連携施設での研修を通じて、様々な地域における医療の重要性と問題点を学び、また貢献できます。お待ちしています！
指導医数(常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 53 名、日本消化器病学会消化器病専門医 23 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 8 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 9 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 3 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 13 名、日本感染症学会感染症専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 21 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医 6 名ほか
外来・入院患者数	外来患者数　417，296 人 入院患者数　215，591 人
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技能技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、島嶼医療なども経験できる。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設 日本内分泌代謝科学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本感染症学会研修施設 日本肝臓学会認定施設など

２３．東京都立東部地域病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立東部地域病院	314	112	6	9	2	2

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立東部地域病院	△	○	○	△	△	△	○	△	△	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度連携型研修指定病院である。・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。適切な労務環境が保障されている。 メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。 ハラスメント委員会

	が整備されている。 女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。 敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。
認定基準【整備基準24】2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 9 名在籍している(下記)。・研修管理委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(医療倫理、医療安全、感染対策） し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。・CPC を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準24】3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、7 の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準【整備基準24】4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 東部地域病院は東京都の城東地域の中心的な急性期病院であり、墨東病院、大久保病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの達携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数(常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 2 名、日本消化器病学会消化器指導医 4 名、日本肝臓学会暫定専門医・指導医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 2 名、日本循環器学会専門医 3 名、日本呼吸器学会指導医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 101,545 名 入院患者 61,279 名
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 分野のうち 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術･技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を､実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく､超高齢社会に対応した地域に根ざした医療､病診･病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本大腸肛門病学会認定施設

２４． 東京都立神経病院

表 1 施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立神経病院	304	236	1	17	17	9

表 2 内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立神経病院	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があり、それぞれのスケジュールのほか必要な連絡事項等はグループウェアを活用し、情報共有を図っている。 ・都立病院医師として地方公務員法をはじめ各条令等により労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(事務局総務担当)があり、院内委員会設置し組織的に対応している。 ・安心して勤務できるように､休憩室､更衣室､シャワー室、当直室を整備している。 ・敷地内に職務住宅と院内保育所があり、それぞれ利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2）専門研修プログラムの環境	・全国最大規模の神経疾患専門病院であり（総病床数 304 床，神経内科病床 236 床)，日本神経学会指導医が 14 名在籍している（下記)。また，神経内科専門医数は 25 名と全国最大規模を誇る。 ・施設内に臨床研修委員会を設置しており，施設内で研修する専攻医の研修を企画・管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図っている。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し（2024 年度実績：ICRWEB 研修(ｅ-ラーニング）、医療安全 8 回、感染対策 2 回)、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的配慮を行っている。 ・研修施設群合同カンファレンスとして、「多摩キャンパス神経カンファレンス」「都立病院神経内科合同症例検討会」「ＴＭＥＤフォーラム(Tama translational Medical science forum)」などに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的配慮を行っている。 ・CPC を定期的に開催しており、専攻医に定期的参加を義務付けている（2025 年度実績：7 回)。 ・地域療養支援のためのカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医が主治医の場合は参加を義務付けている（2024 年度実績：4 回　2025 年　3 回)。 ＊都立神経病院の専門研修プログラムの特長 ・神経疾患に対する幅広い専門性を持ち、高度専門医療を提供しています。診断や初期治療から呼吸器装着、リハビリテーション、在宅診療、終末期緩和ケア、病理解剖まで、神経疾患のすべてを、先生ご自身の目で確かめることができます。 ・病床数、専門医数、指導医数は全国最大規模ですので、格段に豊富な症例を経験できます。 ・7 つの脳神経内科病棟で研修しながら、神経に関する各診療科（神経生

	理・神経放射線・神経病理・高次脳機能・リハビリテーション・精神・神経耳科・神経眼科の 8 部門）でのサブスペシャリティ研修も行うことができます。 ・地域療養支援室を中心とした在宅療養患者に対する往診制度も整備されており、患者を進行期・終末期に至るまで長期にわたりフォローしているため、疾患の全容を把握することができるとともに、患者の「生活の質（QOL)」を重視した医療を学ぶことができます。 ・専攻医向けの講義を定期的に開催しています（2025 年度実績：講義数 23 回)。 ・毎日、指導医から診療指導を受けることができ、加えて週 1 回の病棟カンファレンスにおいて、すべての受け持ち患者の診療方針を複数の専門医とディスカッションして確認することができます。その際には病棟入院患者全員（32 床）の臨床情報を共有し、自分の受け持ち患者のみならず、幅広い知識を身につけることができます。 ・毎週、新患カンファレンスでプレゼンし、15 例前後の新患患者の院長回診に帯同することで、高度な診療技術と最新の学術的知識に触れることができます。さらに医局症例検討会において専攻医が症例提示者もしくは討論担当者となり、臨床における問題点を討議し、知識を深めています。
認定基準【整備基準 24】3）診療経験の環境	＊内科領域の「神経」の分野で、規定の「9 疾患群」を定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 2024 年度実績： 血管障害　30 例、感染性・炎症性疾患　68 例、中枢性脱髄疾患　208 例、神経筋疾患　342 例、末梢神経疾患　296 例、筋疾患　158 例、変性疾患　1152 例、認知症　73 例、機能性疾患　133 例、自律神経疾患　8 例、脊椎疾患　20 例、腫瘍性疾患　5 例、代謝性疾患　11 例、内科疾患・先天異常・精神疾患に伴う神経疾患 60 例
認定基準【整備基準 24】4）学術活動の環境	・日本内科学会地方会に、各専攻医が年間で 1 演題以上の学会発表を行っている。 ・日本神経学会学術大会および地方会では多数参加・発表を行っている。またそれ以外の学会（日本臨床神経生理学会、日本神経病理学会、日本神経心理学会、日本神経免疫学会、等）でも発表している。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われている（2022 年～2025 年の研修医筆頭論文数 6 本、内、英語論文 5 本)。 ・倫理委員会が設置されており、定期的に開催されている（2024 年度実績：11 回)。 ・治験審査委員会が設置されており、定期的に受託研究審査会が開催されている（2024 年度実績：11 回)。
指導責任者	蕨　陽子【内科専攻医へのメッセージ】 私たち都立神経病院は、脳神経内科だけで 200 床以上を持つ、世界でも有数の神経専門病院です。毎週 40～50 名の神経難病患者さんが入退院し、脳炎やギラン・バレー症候群で集中治療を行う急性期の患者さんも大勢います。また、診断や初期治療から在宅診療、終末期緩和ケア、病理解剖まで、神経難病のすべてを自分の目で確かめることができます。学術活動も盛んで、国際学会や論文執筆を誰もが経験できます。 　内科専門研修プログラム基幹施設からの 3～6 ヶ月間の研修の場合、神経学的診察手技と考察技術をしっかりと習得すれば、生涯役に立つと思いま

	す。病床数、専門医数、指導医数は全国最大規模なので、短期間でも格段に豊富な症例を経験できます。一方、脳神経内科専攻の先生方には、全国トップレベルの研修の成果として、神経内科専門医試験の高い合格率を誇りますので、皆さんの期待を裏切らない研修ができるはずです。当院での研修を心よりお待ちしております。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会専門医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、日本神経学会認定神経内科専門医 25 名、日本認知症学会専門医 6 名、日本脳卒中学会専門医 3 名、日本臨床神経生理学会専門医 8 名、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医 3 名、日本てんかん学会専門医 7 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 12 人（1 日平均)、入院患者 296 人（1 日平均)
経験できる疾患群	・内科領域の「神経」の分野で、規定の「9 疾患群」(血管障害，感染性・炎症性疾患，中枢性脱髄疾患，神経筋疾患，末梢神経疾患，筋疾患，変性疾患，認知症，機能性疾患（てんかんを含む)，自律神経疾患，脊椎疾患，腫瘍性疾患，代謝性疾患，内科疾患・先天異常・精神疾患に伴う神経疾患)。 ・急性期の診断・治療から終末期、訪問診療、剖検まで経験できるチャンスがあります。
経験できる技術･技能	・神経学的診察手技と考察技術の習得：神経学的診察手技は，神経内科専門医が診療報酬として算定できる「神経学的検査」に準じて，意識状態，言語，脳神経，運動系，感覚系，反射，協調運動，髄膜刺激症状，起立歩行等に関する総合的な診察手技を身につけ，それを「神経学的検査チャート」にまとめ，その結果を患者及び家族等に説明できる技術を身につけます。考察技術として，問診と解剖学的診断から導き出される入院時診断と鑑別診断を立案する技術を身につけ，診断確定のための検査計画立案と，適確な治療選択ができるよう指導します。 ・技能の習得：神経生理学的検査技術（筋電図，神経伝導検査，脳波，誘発脳波など)，神経放射線読影技術（CT・MRI，SPECT，等)，神経・筋生検およびその所見の解釈，剖検例における神経病理学的診断技術，高次機能評価法，神経耳科・神経眼科的診断技術（眼振図など)，また脳深部刺激療法術の経験，などを研修できます。
経験できる地域医療・診療連携	患者・地域サポートセンターを中心とした在宅療養患者の支援を行います。具体的には、地域療養を行うにあたって、院内・院外の多職種スタッフによるカンファレンスに参加し、問題点の共有・療養方針の共有確認を行い、在宅療養への準備を行います。退院後は、家庭医との協力のもと、定期的に往診を行い、必要に応じて専門医としての診療方針の決定やアドバイスを行い、必要時の入院受け入れを行います。在宅呼吸補助治療、在宅経管栄養治療、在宅終末期緩和ケア治療など、神経難病に関連した地域医療・病診連携を経験することができます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会教育特殊施設、日本神経学会専門医教育施設、日本認知症学会専門医教育施設、日本臨床神経生理学会教育施設（脳波分野、筋電図・神経伝導分野)、日本てんかん学会専門医研修施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本小児神経学会小児神経科専門医研修認定施設

２５．東京都立松沢病院

表１　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立松沢病院	898	90	5	10	10	3

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都立松沢病院	○	○	○	△	○	○	○	×	○	○	○	○	×

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都立病院機構職員として労務環境が保障されている。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署がある。(庶務課担当職員) ・ハラスメント相談窓口が機構法人本部に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 11 名在籍している。 ・内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(年 2 回)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，神経，感染症および救急の分野で，定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定している。

指導責任者	林　栄治 【内科専攻医へのメッセージ】松沢病院では，一般内科疾患のほか，精神障害者の身体合併症を幅広く経験することが出来ます．また，精神疾患や精神症状への対応を学ぶことが出来ます．身体合併症医療は，非常にやり甲斐があり，社会的意義の大きな医療です．ぜひ経験してみて下さい．
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 10 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名，日本消化器病学会消化器専門医 2 名，日本消化器内視鏡学会認定専門医 2 名，日本循環器学会循環器専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 2 名，日本透析医学会透析専門医 1 名，日本神経学会認定神経内科専門医 2 名，日本感染症学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 415 名(1 日平均全科計）入院患者 639 名（内科）（令和 6 年実績）
経験できる疾患群	内科疾患一般，結核を含む感染症，呼吸器疾患，循環器疾患，代謝疾患，その他多彩な精神科身体合併症を経験出来ます．
経験できる技術･技能	基幹施設と連携して，技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来る．
経験できる地域医療・診療連携	全都に渡る精神科病院と連携し，多数の身体合併症患者を受け入れ，診療の後は，精神科病院に返送している．また世田谷区，杉並区の地域医療機関として，診療所と連携し，地域医療に対応している．
学会認定施設(内科系)	日本内科学会教育関連施設/日本神経学会準教育施設/日本感染症学会教育施設/日本精神神経学会教育施設/日本外科学会教育関連施設/日本整形外科学会教育施設/日本麻酔学会教育施設，ほか

２６．東京都立多摩南部地域病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
東京都立多摩南部地域病院	287	110	5	13	9	4

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
横須賀共済病院	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。UptoDate，その他文献検索の環境が整っています。 ·地方独立行政法人東京都立病院機構 任期付病院職員（非常勤）として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ·多摩南部地域病院では、セキュシュアル・ハラスメント相談窓口を設置しています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·保育所利用に関して支援制度があります。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 13 名在籍しています（下記)。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（委員長（副院長)、統括責任者・プログラム管理者（診療部長)（総合内科専門医かつ指導医)； にて、基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2026 年度中に整備）を設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。院内における e-ラーニングも活用します。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2026 年度より開始予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。隔地の連携施設とはテレカンファレンスを開催します（指導医の相互訪問指導なども予定しています)。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（内科症例検討会、多摩南部地域病院特別講演会・講習会など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（連携施設の多摩総合医療センター開催分に参加）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·特別連携施設（島しょ等診療所群）の専門研修では、電話や週 1 回の多摩南部地域病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記)。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記)。 ·専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 4 体，2025 年度 4 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2019 年度実績 38 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています．内科部長の本城聡は、内科学会地方会の座長を複数回経験しています。

指導責任者	本城　聡 【内科専攻医へのメッセージ】 多摩南部地域病院は、東京都南多摩医療圏の中心的な急性期病院であり、南多摩医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名・同指導医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名・同指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 1 名・同指導医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名・同指導医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名・同指導医 2 名、日本緩和医療学会認定医 2 名、日本病院総合診療医学会認定病院総合診療医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,900 名（1 ヶ月平均）　入院患者 734 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	多摩ニュータウン地区は全国的にも急激な高齢化が問題となっている地域です．急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設　など

２７．横須賀共済病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
横須賀共済病院	740	334	8	20	22	9

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
横須賀共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	・基幹型臨床研修病院の指定を受けている。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・横須賀共済病院の専攻医として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・近傍に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 20 名在籍している。 ・本プログラム管理委員会を設置して専攻医の研修を管理し，基幹施設、連携施設に設置される研修委員会と連携を図る。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に、JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。(2025 年度開催実績 1 回) ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応する。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 65 以上の疾患群）について研修できる。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	・臨床研修に必要な図書室、インターネット環境などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 ・治験センターが設置している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。（2025 年度実績 10 演題）

指導責任者	渡辺　秀樹 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀共済病院は横須賀・三浦地区の二次医療圏の中核病院として急性期医療を担っています。 特に救急医療に力を入れており、内科専門医研修として十分な症例を経験できます。また、各内科の専門医・指導医が豊富にいるため、内科専門医研修医への指導体制も充実しています。また、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、悪性疾患に対する集学的治療・緩和医療・地域医療機関への診療支援などを積極的に行っています。 さらに地域医療支援病院の承認を受けており、「かかりつけ医」と「地域医療支援病院」が地域の中で、医療の機能や役割を分担し、より効果的な医療を進めています。このように救急医療からがん診療、そして地域連携と多様な病状・病態の症例を経験可能です。 また、地域連携病院として横須賀・三浦地区の近隣の病院から、横浜市立大学・東京医科歯科大学の関連病院などがあり、希望にあわせて連携病院での研修も行います。 当院での研修・連携病院での研修をあわせて最初の 2 年間での内科専門医研修に必要な症例を網羅できるようにプログラムを組み、最後の 1 年間はサブスペシャルティ研修が受けられるようしていきます。 かなり多忙な 3 年間になると思われますが、充実した経験が可能です。 熱意のある先生方からの志望をお待ちしております
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医　20 名、日本内科学会総合内科専門医　22 名、日本消化器病学会消化器専門医　7 名、日本肝臓学会専門医　5 名、日本循環器学会循環器専門医　7 名、日本腎臓病学会専門医　3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医　5 名、日本血液学会血液専門医　3 名、日本神経学会神経内科専門医　3 名、日本糖尿病学会専門医　2 名、日本リウマチ学会専門医　1 名、日本アレルギー学会専門医　3 名
外来・入院患者数	外来延患者　143,040 名、入院患者　9,201 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定内科専門医教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会認定医制度教育関連施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度認定施設

	日本心血管インターベンション学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設　　など

２８．静岡県立静岡がんセンター

表１　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
静岡県立静岡がんセンター	615	300	13	6	17	4

表２　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
静岡県立静岡がんセンター	○	**○**	△	×	×	×	**○**	○	○	×	×	○	×

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表３　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 常勤医として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメント相談窓口を設置している。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	・指導医が６名在籍している。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に講習会の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。医療倫理講習会は基幹施設で行う講習会の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に当院又は基幹施設もしくは日本内科学会が行うＣＰＣの受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを毎月開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器の分野を中心に定常的に専門研修が可能な症例数を診察している。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室等を整備している。 倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 臨床研究支援センター　治験管理室を設置し、受託研究審査会を開催している。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしている。
指導責任者	氏名：副院長　高橋　利明 【内科専攻医へのメッセージ】 静岡県立静岡がんセンターは、全床 615 床、都道府県がん診療拠点病院、特定機能病院の資格を有するがんの高度医療機関です。 経験できる疾患群は、13 領域のうち、がん専門病院として 11 領域 49 疾患群の症例を経験することができます。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医６名、日本内科学会総合内科専門医 17 名、日本消化器病学会消化器専門医 20 名、日本消化器内視鏡学会専門医 17 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医７名、日本血液学会血液専門医７名、日本感染症学会感染症専門医１名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 14 名　ほか （2026.4 現在）
外来・入院患者数	外来延べ患者 327,097 名(2024 年度)、入院延べ患者 203,474 名(2024 年度)
経験できる疾患群	13 領域のうち、がん専門病院として主に５領域 27 疾患群の症例を、最大 11 領域 49 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設(内科系)	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌外科学会専門医制度関連施設　等

２９．静岡てんかん・神経医療センター

表１　施設の概要

病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
静岡てんかん・神経医療センター	406	50	1	2	2	1

表２　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
静岡てんかん・神経医療センター	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・静岡てんかん・神経医療センター医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに対応する部署が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 5 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内の専攻医の専門研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（令和 7 年度は 1 回実施）
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	・内科領域のうち、てんかん、神経変性疾患、認知症の専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（令和 7 年度は 1 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、インターネット学術誌閲覧などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、随時に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本神経学会総会および同地方会、日本てんかん学会学術集会、日本神経治療学会学術集会、パーキンソン病・運動障害疾患コングレス、日本認知症学会学術集会、日本神経病理学会学術研究会、海外学会に発表をしています。
指導責任者	川口典彦
指導医数(常勤医)	5 名（内科、脳神経内科、てんかん）
外来・入院患者数	年間入院患者実数　3,930 人　1 日平均外来患者数　115 人
経験できる疾患群	てんかん。パーキンソン病などの神経変性疾患。アルツハイマー病などの認知症性疾患。
経験できる技術･技能	・脳波の施行と判読、誘発電位検査の施行と判読、筋電図・神経伝導速度検査の施行と判読。 ・中枢神経系の画像診断。 ・神経心理検査

経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会において患者数が増加傾向であるところの、てんかん、神経変性疾患、認知症に対応し、地域に根ざした医療，病診・病 病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	・日本神経学会教育施設 ・日本てんかん学会教育施設 ・日本臨床神経生理学会認定施設（脳波分野、筋電図・神経伝導分野） ・日本認知症学会教育施設

３０．国立循環器病研究センター

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
国立循環器病センター	525	279	11	72	50	10

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
国立循環器病センター	△	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	△	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント相談窓口が人事課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 72 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し（2024 年度実績　5 回)、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2023 年度実績　2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。（2024 年度 10 体）
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	・臨床研究が可能な環境が整っています。 ・倫理委員会が設置されています。 ・臨床研究推進センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 2 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2024 年度 329 演題）
指導責任者	野口 暉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 72 名、日本内科学会総合内科専門医 50 名、日本循環器学会循環器専門医 54 名、日本脳卒中学会脳卒中専門医 20 名、日本糖尿病学会専門医 7 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 22 名、日本老年医学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 171,001 名（2025 年実績） 入院患者 13,635 名（2025 年実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、24 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設　など

３１．川西市立総合医療センター

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
川西市立総合医療センター	405	119	8	10	6	9

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
川西市立総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（医事課職員担当）があります。 ·ハラスメント委員会が川西市立総合医療センター内、医療法人協和会内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ·提携している保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 10 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療局長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（病院主催川西市地域医療連携勉強会、感染防止対策講習会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち全分野（少なくても８分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･７０疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても３５以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2023～2025 年度平均 7.0 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会が設置されています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１講演以上に学会発表をしています。
指導責任者	厨子　慎一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 川西市立総合医療センターは 2022 年 9 月に新規開院した川西市内最大の急性期病院です。阪神北医療圏域の中核病院として広く川西市、猪名川町にわたる高齢者の多い地域の多彩な疾患が経験可能です。内科以外の診療科とも協力して積極的に診療にかかわり、生涯にわたって学習する姿勢を大事にする医師を育成します。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 9 名,日本消化器病学会指導医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、日本消化器内視鏡学会指導医 4 名,日本消化管学会胃腸科専門医 5 名、日本消化管学会胃腸科指導医 5 名、日本炎症性腸炎疾患学会 IBD 専門医 1 名、日本炎症性腸炎疾患学会 IBD 指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本循環器学会専門医 5 名,日本脈管学会専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、日本禁煙学会専門医 1 名、日本禁煙学会指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名，日本内分泌学会指導医 1 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本高血圧学会指導医 1 名、日本老年病学会専門医 1 名、日本超音波学会専門医 1 名、日本超音波学会指導医 1 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本透析医学科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 17,355 名　　入院患者数 12,971 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群のうち８領域５０疾患群以上の症例を幅広く経験できることができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験できることができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本透析医学会教育関連施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定など

３２．奈良県立医科大学附属病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
奈良県立医科大学附属病院	992	229	10	118	57	10

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
奈良県立医科大学附属病院	△	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・奈良県立医科大学附属病院の医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。 ・ハラスメントに係る規程が整備され、必要に応じて委員会が開催されます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・病院の至近距離(50m)に院内保育所があり、病児保育の体制も整っています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修 プログラムの環境	･指導医が 118 名在籍しています。（按分前）（下記参照） ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理･医療安全･感染対策の委員会･講習会を定期的に開催 (2025 年度実績：臨床研究セミナー (12 回実施)、医療安全研修会 (e-learning (2 項目受講必須))、

	感染対策研修会（集合研修 2 回・e-learning4 種類実施 ※補助対応あり)）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 24 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます 臨床医として優秀かつ教育実績のある医師を国内外から広く招聘し、専攻医の臨床能力向上に努めています。(Dr. N プロジェクト)
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、内分泌、アレルギーを除く、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。(連携施設からの按分症例数を含めると充分です)
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会或いは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 25 演題）をしています。
指導責任者	吉治　仁志 【内科専攻医へのメッセージ】 　奈良県立医科大学附属病院は多くの協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて、質の高い内科専門医育成を目指しています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、内科専門医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 118 名，日本内科学会総合内科専門医 80 名 日本消化器病学会専門医 24 名，日本肝臓学会肝臓専門医 19 名， 日本循環器学会専門医 14 名，日本内分泌学会専門医 9 名， 日本腎臓病学会専門医 19 名，日本糖尿病学会専門医 11 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名，日本血液学会血液専門医 10 名， 日本神経学会神経内科専門医 20 名，日本アレルギー学会専門医(内科) 3 名， 日本リウマチ学会専門医 7 名，日本感染症学会専門医 10 名， 日本老年医学会専門医 4 名，日本消化器内視鏡学会専門医 25 名， 臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名　ほか
外来・入院患者数	一日平均外来患者数 2,334 名(年間延べ外来患者数は 564,777 名) 年間新入院患者 21,359 名(年間延べ入院患者数は 288,698 名)
経験できる 疾患群	極めて稀な疾患を除き、連携施設群の症例を合わせて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づ

技術・技能	きながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本動脈硬化学会専門医認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈心電学会認定認定不整脈専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 TAVR（経カテーテル的大動脈弁置換術）実施施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定専門医施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器がん検診学会認定医制度指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本リハビリテーション医学会専門研修プログラム基幹施設 日本神経病理学会認定施設 日本認知症学会教育施設 日本頭痛学会認定教育施設 総合診療専門研修プログラム基幹施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定総合医・家庭医研修プログラム研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設

	日本環境感染学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設 日本東洋医学会研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設　など

３３．筑波メディカルセンター病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
筑波メディカルセンター病院	408	164	8	16	11	7

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
筑波メディカルセンター病院	○	○	○	○	○	×	○	△	○	○	△	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります. ・筑波メディカルセンター常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する健康管理室があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地外に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修	・指導医は 16 名在籍しています. ・内科専門医プログラム研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.

プログラムの環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 26 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2025 年度内科系：実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，呼吸器，感染症，神経，アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2025 年度　7 体　2023 年度　8 体　2023 年度　5　体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計　1　演題以上の学会発表を予定しています（2024 年度実績 1 演題）.
指導責任者	飯島　弘晃 【内科専攻医へのメッセージ】飯島弘晃　呼吸器内科　専門部長　統括責任者 筑波メディカルセンター病院は茨城県の県南地域の 3 次救急救命センターを併設する急性期病院・地域がん診療連携拠点病院であり基幹病院としてプログラムを運営しています. 筑波大学附属病院・東京医療センター・水戸協同病院・墨東病院・昭和大学・日立総合病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，臨床・研究を含めた次のステップに進むことのできる内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　16 名，日本内科学会総合内科専門医　12 名，日本消化器病学会消化器専門医　1 名，日本循環器学会循環器専門医　5 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医　4 名，日本神経学会神経内科専門医　1 名，日本肝臓学会専門医　2 名，日本腎臓内科学会専門医　1 名，日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医　1 名，日本感染症学会専門医　1 名，日本アレルギー学会専門医（内科）3 名，日本老年医学会老年病専門医　1 名，日本救急医学会救急科専門医　3 名，　日本緩和医療学会専門医　2 名　他
外来・入院患者数	外来：内科年間外来患者数　53,392 人（267.6 人/日） 入院：内科年間入院患者数　4,971 人（155 人/日）
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域，63 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる 地域医療・診療連携	一般急性期医療，ドクターヘリを含む 3 次救急医療，がん診療などの分野を中心にして病診連携，病病連携を経験することができます．急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本感染症科学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設日本胆道学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療学会暫定認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会認定施設・認定研修教育病院日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設日本東洋医学会研修施設 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会認定施設・研修認定施設日本透析医学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設日本高血圧学会認定施設 日本脈管学会研修関連施設 腹部救急認定医・教育医制度認定施設など

３４．豊橋ハートセンター

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
豊橋ハートセンター	130	100	1	6	4	0

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
豊橋ハートセンター	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・研修に必要な図書室、インターネット環境があります ・常勤医師として労務環境が保障されています ・メンタルストレスに適切に対処する部署は無いが、必要に応じて研修委員長が対処いたします。 ・ハラスメントについて委員会が整備されています ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています ・保育所が敷地隣に設置されており、利用可能です
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修 プログラムの環境	・総合内科専門医が 4 名在籍しています ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期亭に開催（医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスはないが、循環器領域を中心とした愛知県地区の循環器内科医師を集めたカンファレンスの年 4 回の開催を主催しております ・CPC は開催実績がございません
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、循環器と救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、必要に応じ開催（ 2019 年度実績：4 回）しています。 ・治験審査委員会を定期的に開催（ 2019 年度実績： 2 回）しています。 ・シニアレジデント（専攻医）が国内、国外の学会に算し・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆を行われています
指導責任者	坂元 裕一郎医師 【内科専攻医へのメッセージ】当院は三河地方唯一の循環器専門病院として診療しており、数多くの循環器疾患の治療にあたっており、TAVI, Mitra-clip など、他の総合病院でも施行できない手技や、これから保険収載される新しいデバイスの治験も数多く施行しており、当院で研修すれば、総合内科専門医になるに当たり、貴重な経験を積むことが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 13 名
外来・入院患者数	外来患者 5450 名（1 ヶ月平均） 入院患者 1830 名（1 ヶ月平均延数
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 循環器領域 10 疾患群と救急領域 4 疾患群の症例を経験することができます

経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際 の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療 や病診・病病連携などを経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施

３５．国際医療福祉大学成田病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
国際医療福祉大学成田病院	642	300	11	34	34	18

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
国際医療福祉大学成田病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･国際医療福祉大学成田病院専攻医として労務環境が保障されています. ･安全衛生委員会がメンタルストレスに適切に対処します. ･ハラスメント防止委員会が院内に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり,利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】	･指導医が 34 名在籍しています（下記）. ･後期研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，プログラ

2)専門研修 プログラムの環境	ム管理委員会が連携施設群との連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2024 年度 11 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全分野（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	脳神経内科部長 村井弘之
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 34 名，日本内科学会総合内科専門医 32 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 3 名ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 8,337 名（1 ヶ月平均）　内科入院患者 334 名（1 ヶ月平均）
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設、日本血液学会血液研修施設、日本高血圧学会高血圧認定研修施設、日本胆道学会認定指導施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育認定施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育

	研修施設ほか

３６．国立精神神経医療研究センター病院

表１　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
国立精神神経医療研究センター病院	486	187	5	26	21	12

表２　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
国立精神神経医療研究センター病院	○	○	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表３　施設の詳細

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･施設内に研修に必要な図書やインターネットの環境が整備されています。 ･国立精神・神経医療研究センターレジデントとして適切な労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署が整備されています。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されています。 ・敷地内にある保育施設等が利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修 プログラムの環境	指導医が 多数在籍しています。 ･ 研修委員会を設置して、施設内の専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催して、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ･ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ･多職種連携の地域参加型カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えています。 ･ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義

	務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 施設実地調査に対応可能な体制があります。
認定基準 【 整 備 基 準 23/31】 3)診療経験の環境	・ 当院は脳神経疾患の専門病院ですが、内科一般の診療も行っており、カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 7 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療します。 ・ 専門研修に必要な剖検を適切に行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・ 倫理委員会が設置されています。 ・ 臨床研究センターや治験センター等が設置されています。 ・ 主たる学会発表は日本神経学会の学術集会あるいは地方会ですが、日本内科学会講演会あるいは同地方会にも年間で計 1 演題以上の学会発表を行っています。
指導責任者	高橋　祐二
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本内科学会認定内科医 26 名、日本循環器学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者数：37311 人、入院患者数：139245 人
経験できる 疾患群	脳神経内科領域のほぼすべての疾患を経験できます。
経験できる 技術・技能	Subspecialty として脳神経内科診療に必要な技術・技能を網羅しています。
経験できる 地域医療・診療連携	当院の専門疾病領域である認知症・パーキンソン病等の神経疾患における病病連携・病診連携を通じて、高齢化社会における地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本遺伝カウンセリング学会 臨床遺伝専門医制度研修施設 日本麻酔科学会 認定病院 日本臨床薬理学会 専門医制度研修施設 日本アフェレシス学会 認定施設 日本てんかん学会 専門医制度研修施設 日本リハビリテーション医学会 研修施設 日本外科学会 外科専門医制度関連施設 日本核医学会 専門医教育病院 日本小児神経学会 専門医制度研修施設 日本神経学会 専門医制度教育施設 日本精神神経学会 精神科専門医制度研修施設 日本総合病院精神医学会 一般病院連携精神医学専門医研修施設 日本定位・機能神経外科学会 技術認定施設 日本認知症学会 専門医制度教育施設 日本病理学会 専門医制度研修登録施設

	日本理学療法士協会 生涯学習制度（新人教育プログラム）臨床指導施設 日本臨床精神神経薬理学会 専門医制度研修施設 日本臨床神経生理学会 教育施設（脳波分野及び筋電図・神経伝導分野） 日本老年精神医学会 専門医制度認定施設 臨床修練指定病院 日本精神科看護協会 精神科認定看護師制度 指定実習施設 日本精神科看護協会 精神科認定看護師 教育機関 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本睡眠学会　睡眠医療認定医療機関

３７．横浜市立みなと赤十字病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
横浜市立みなと赤十字病院	624	222	11	30	20	14

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
横浜市立みなと赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・横浜市立みなと赤十字病院の常勤嘱託医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスには労働安全衛生委員会が適切に対処します。 ・ハラスメント防止規定に基づき委嘱された相談員がいます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
認定基準	・指導医が 30 名在籍しています。

【整備基準 23】 2)専門研修 プログラムの環境	・内科専門研修プログラム管理委員会（プログラム統括責任者（指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育研修センターを設置します。 ・医療倫理（２０２５年度開催実績１回）・医療安全（２０２５年度開催実績２回）・感染対策講習会（２０２５年度開催実績２回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（２０２６年度予定）を参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣ を定期的に開催（２０２５年度開催実績８回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（みなとセミナーなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（２０２５年度開催実績１回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師教育研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、内分泌、代謝、腎臓、血液、膠原病、アレルギー、感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・７０疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも５６以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（２０２５年度実績１４体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・臨床倫理委員会を設置し、定期的に開催（２０２５年度開催実績１８回）しています。 ・医療倫理委員会を設置し、定期的に開催（２０２５年度開催実績７回）しています。 ・臨床試験支援センターを設置し、治験審査委員会（２０２５年度開催実績１３回）、自主臨床研究審査委員会（２０２５年度開催実績１２回）を定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表（２０２５年度実績７演題）をしています。
指導責任者	萩山　裕之 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、横浜市の中心部である中区に立地し、近隣に山下公園、横浜中華街といった繁華街があります。地域医療支援病院、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院に指定され、救急車の受け入れ台数は例年 10,000 台を超え全国でも際

	立つ存在となっています。またがんセンターや心臓病などのセンター化を進め、PET/CT、高機能 MRI・CT、手術支援ロボット等々を整備し、横浜南部医療圏の地域医療の中核を担っています。救急医療、悪性疾患に対する集学的治療、緩和医療、地域医療機関への診療支援などを積極的に行っており、経験できる症例数は多く多彩であり、各内科系診療科の専門医・指導医が指導に当たります。内科専攻医として、救急から緩和、地域医療の幅広い研修や、各領域の専門性の高い研修が可能です。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医３０名、日本内科学会総合内科専門医２１名、日本消化器病学会消化器専門医７名、日本肝臓学会専門医６名、日本循環器学会循環器専門医９名、日本糖尿病学会専門医３名、日本内分泌学会専門医３名、日本腎臓病学会専門医３名、日本呼吸器学会呼吸器専門医５名、日本血液学会血液専門医３名、日本神経学会神経内科専門医２名、日本アレルギー学会専門医（内科）２名、日本リウマチ学会専門医３名、日本感染症学会専門医１名、日本救急医学会救急科専門医２名
外来・入院患者数	外来患者延べ数　１０７，１７９名　　入院患者数　９５，０１９名
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、 ７０疾患群の症例を経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本神経学会教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設

	日本リハビリテーション医学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設

３８．浦添総合病院

表１　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
浦添総合病院	334	160	6	15	9	2

表２　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
豊橋ハートセンター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネットの環境があります. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（職員サポートセンター）があります. ･ハラスメントに関する委員会については，人事審査委員会が整備されています。 ･事業所内保育所があり，利用可能です. （浦添総合病院より徒歩５分） ･女性医師が安心して勤務できるように，女性更衣室，女性専用シャワー室，当直室，を設置しています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修 プログラムの環境	･日本内科学会指導医は 15 名在籍しています（下記指導医数参照）. ･内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会と教育研究室を設置しています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス[救急症例検討会(隔月)，地域医療連携講演会(不定期)，他]を開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に教育研究室が対応します. ･特別連携施設の専門研修では，電話やインターネットを使用して指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. ･専門研修に必要な剖検（2024 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･臨床倫理委員会を設置し，開催しています. ･臨床研究支援センターを設置し，定期的に治験審査委員会(月 1 回)を開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をして

	います.
指導責任者	仲吉　朝邦 【内科専攻医へのメッセージ】 浦添総合病院のある浦添市は，“沖縄の空の玄関口”那覇空港から北へ約 25 分に位置しており，研修生活に最適な環境（住宅・交通の便）が整っております. 近隣に立地する群星（むりぶし）沖縄臨床研修センター主催の講演会（定期的に国内外の有名講師を招聘）や近隣ホテルで開催される講演会への参加など，良い研修に必要不可欠な情報へのアクセスも抜群です. もちろん，院内での研修内容も充実しております．当院は浦添市・那覇市・宜野湾市を中心に地域の中核病院としての役割を担っているため，多くの症例を経験でき，初期研修で学んだ内科専門知識を深めることはもとより，内科専攻医に必要な 13 領域 70 疾患群の症例を十分に経験できるものとなっております. また，当プログラムの大きな特長は豊富な急性期疾患を経験できるということです．沖縄県内３つの救命救急センターのうちの１つを有し，トップクラスの救急車搬送患者数を誇ります．病院前診療にも力を入れており，沖縄県の補助事業であるドクターヘリや消防本部からの要請で現場へ駆けつけるドクターカー研修も可能です. 一方，連携施設では，離島研修や高齢者医療，在宅医療を経験できる体制を整えております．これらをバランス良く経験することで，今後の内科医としての礎を築くことにつながるでしょう．専攻医の皆さんが“主役”です．“主役”にとって良い研修が何なのかを常に考え，実践することを私たちはお約束します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名，日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会指導医 2 名，専門医 6 名 日本肝臓学会指導医 1 名，専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会指導医 3 名，専門医 6 名 日本循環器学会専門医 6 名， 日本糖尿病学会指導医 2 名，専門医 2 名 日本腎臓病学会指導医 1 名，専門医 2 名 日本呼吸器学会指導医 1 名，専門医 1 名 日本感染症学会専門医 2 名， 日本透析医学会指導医 2 名，専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 14 名，ほか
外来・入院患者数	総外来患者数（実数）：89,039 名 総入院患者数（実数）：13,601 名
経験できる 疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．一部の領域（血液，膠原病分野）は連携病院での研修で十分履修可能です.
経験できる	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づ

技術・技能	きながら幅広く経験することができます.
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本病院総合診療医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管鏡専門医制度関連施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会･日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設

３９．飯塚病院

表１　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
飯塚病院	1006	561	18	41	44	8

表２　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
飯塚病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN、Wi-Fi）があります。 ・飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および看護師が常駐しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に病児保育室、隣接する施設に 24 時間対応院内託児所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修 プログラムの環境	・指導医は 41 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年実績　医療倫理 5 回、医療安全 9 回、感染対策 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 45 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	本村　健太

	【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器病専門医 15 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 33,100 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,853 名（1 ヶ月平均）
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設

	日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本臨床栄養代謝学会認定稼働施設など

４０．亀田総合病院

表 1　施設の概要

病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
亀田総合病院	917	500	11	33	22	17

表 2　内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
亀田総合病院	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	×

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

表 3　施設の詳細

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境 ・メンタルストレスに適切に対処するセルフケアサポートセンター ・悩みの相談をはじめ精神的なケアに専従するチャプレンや臨床心理士が常勤 ・ハラスメント委員会の整備

	・女性専攻医も安心して勤務できるように、男女別の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備 ・敷地に隣接した保育所および病児保育施設 ・病院併設の体育館・トレーニングジム ・その他、クラブ活動、サーフィン大会など
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修 プログラムの環境	・常にメールなどを通じて指導医、研修センターと連絡ができる環境。 ・連携施設での研修中であっても指導医と面談しプログラムの進捗状況の報告や相談をすることができるようウェブ会議ができる環境。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告を記載します。 これらを通じて、遭遇することが稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	①内科系学術集会や企画に年 2 回以上参加する(必須)。※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会 CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。 ③クリニカルクエスチョンを見出し、臨床研究を行う。 ④内科学会に通じる基礎研究を行う。 以上を通じて、化学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。専攻医は学会発表あるいは論文発表を、筆頭者として 2 件以上行います。なお、専攻医が、社会人大学院など希望する場合でも、亀田総合病院内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	内科プログラム統括責任者/消化器内科　部長　中路　聡
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　3 名，日本内科学会総合内科専門医　22 名， 日本消化器病学会専門医　6 名，日本胆道学会専門医　3 名， 日本消化器内視鏡学会　6 名、日本循環器学会専門医　7 名， 日本内分泌学会専門医　4 名，日本腎臓病学会専門医　5 名， 日本呼吸器学会専門医　4 名，日本血液学会専門医　2 名， 日本神経学会専門医　8 名，日本リウマチ学会専門医　1 名， 日本感染症学会専門医 4 名ほか.
外来・入院患者数	2024 年度実績　延べ外来患者　71,298 名 入院患者　22,360 名
経験できる	全 70 疾患群、200 症例以上を経験することを目標とします。内科領域研修を幅広

疾患群	く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がありますので、内科専門医に求められる知識・技能・態度修練プロセスを専門研修(専攻医)年限ごとに設定している。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳参照。幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに化学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。
経験できる 地域医療・診療連携	病病・病診連携の両方での立場での研修を通じ、地域医療を幅広く多面的に学ぶことができます。
学会認定施設 （内科系）	日本日本内科学会認定医制度における教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定 日本不整脈・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設　など

整備基準 44 に対応

別添２

都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

専攻医研修マニュアル

1　専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することである。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

(1)地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)

(2)内科系救急医療の専門医

(3)病院での総合内科(generality)の専門医

(4)総合内科的視点を持った subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得する。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにある。

本プログラム施設群での研修修了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と general なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成する。そして、東京都区東部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要する。また、希望者は subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果である。

本プログラム修了後には、都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修施設群(下記)だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能である。

2　専門研修の期間

図１　都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム(概念図)



基幹施設である東京都立墨東病院内科で２年間(混合タイプは３年間)、連携・特別連携施設で１年間の専門研修を行う。

3　研修施設群の各施設名(資料１　「東京都立墨東病院研修施設群」参照)

基幹施設：　東京都立墨東病院

連携施設（施設に関する情報は別添１を参照）

No.	所在地	病院名
1	茨城県	筑波大学附属病院
2	茨城県	筑波記念病院
3	茨城県	ＪＡとりで総合医療センター
4	千葉県	千葉大学医学部附属病院
5	千葉県	日本医科大学千葉北総病院

6	千葉県	東京ベイ・浦安市川医療センター
7	千葉県	国立国際医療研究センター国府台病院
8	東京都	東京医科歯科大学病院
9	東京都	東京大学医学部附属病院
10	東京都	東京大学医科学研究所附属病院
11	東京都	同愛記念病院
12	東京都	青梅市立総合病院
13	東京都	榊原記念病院
14	東京都	大森赤十字病院
15	東京都	国立がん研究センター中央病院
16	東京都	東京都立広尾病院
17	東京都	東京都立大久保病院
18	東京都	東京都立大塚病院
19	東京都	東京都立駒込病院
20	東京都	東京都立豊島病院
21	東京都	東京都立荏原病院
22	東京都	東京都立多摩総合医療センター
23	東京都	東京都立東部地域病院
24	東京都	東京都立神経病院
25	東京都	東京都立松沢病院
26	東京都	東京都立多摩南部地域病院
27	神奈川県	横須賀共済病院
28	静岡県	静岡県立静岡がんセンター
29	静岡県	静岡てんかん・神経医療センター
30	大阪府	国立循環器病研究センター
31	兵庫県	川西市立総合医療センター
32	奈良県	奈良県立医科大学附属病院
33	茨城県	筑波メディカルセンター病院
34	愛知県	豊橋ハートセンター
35	千葉県	国際医療福祉大学成田病院
36	東京都	国立精神・神経医療研究センター病院
37	神奈川県	横浜市立みなと赤十字病院
38	沖縄県	浦添総合病院
39	福岡県	飯塚病院
40	千葉県	亀田総合病院

特別連携施設

No.	所在地	病院名
1	東京都	利島村国保診療所
2	東京都	新島村国保本村診療所
3	東京都	新島村国保式根島診療所
4	東京都	神津島村国保直営診療所
5	東京都	三宅村国保直営中央診療所
6	東京都	御蔵島国保直営御蔵島診療所
7	東京都	青ヶ島村国保青ヶ島村診療所
8	東京都	小笠原村立小笠原村診療所
9	東京都	小笠原村立小笠原村母島診療所
10	東京都	檜原村国保檜原診療所
11	東京都	奥多摩町国保奥多摩病院
12	岡山県	哲西町診療所

4　プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名
(資料 3　「東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

指導医師名
日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて確認することができます。

5　各施設での研修内容と期間

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメデイカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)などを基に、専門研修(専攻医)3 年目の研修施設を調整し決定する。病歴提出を終える専門研修(専攻医)3 年目の 6 カ月～1 年間、連携施設、特別連携施設で研修をする(図 1)

6　本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である東京都立墨東病院診療科別診療実績を以下の表に示す。東京都立墨東病院は地域基幹病院であり、救急疾患、がん難病疾患を中心に診療している。

表　東京都立墨東病院診療科別診療実績

2025 年実績	入院延患者（延人数/年）	外来延患者数(延人数/年)
消化器内科	20,233	34,982
循環器内科	10,153	15,524
糖尿病・内分泌内科	465	6,029
腎臓内科	6,533	9,868
呼吸器内科	10,516	12,845
脳神経内科	11,215	10,889
血液内科	6,608	8,216
救急科	27,080	10,562
感染症科	5,492	3,043
膠原病(アレルギー)科	3,949	16,040

＊代謝、内分泌、膠原病(アレルギー)領域の入院患者は少なめだが、外来患者診療を含め、1 学年 7 名に対し十分な症例を経験可能である。

＊13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍している(資料 1 「都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修施設群」参照)。

＊剖検体数は 2024 年度 9 体、2025 年度 5 体である。

7　年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当する。

主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受持つ。

ローテーションすべき診療科については専攻医による選択希望をもとに、初期研修期間中の経験症例内容を考慮してプログラム管理委員会によって調整・決定される。期間は 1-3 ヶ月を原則とする。

8　自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフイードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う。必要に応じて臨時に行うことがある。

評価終了後、1 か月以内に担当指導医からのフイードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくす。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフイードバックを受け、さらに改善するように最善をつくす。

9　プログラム修了の基準

(1)J-OSLER を用いて、以下の i)～vi)の修了要件を満たすこと。

ⅰ)主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上(外来症例は 20 症例まで含むことができる)を経験することを目標とする。その研修内容を J-OSLER に登録する。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる)を経験し、登録済みである(指導医マニュアル：別表 1 参照)。

ⅱ) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理(アクセプト)されている。

ⅲ) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上ある。

ⅳ) JMECC 受講歴が 1 回ある。

ⅴ) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴がある。

ⅵ) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められる。

(2)当該専攻医が上記修了要件を充足していることを東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 か月前に東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行う。

〈注意〉「内科専門研修カリキュラム」 の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間(基幹施設 2 年間十連携・特別連携施設 1 年間)とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがある。

10　専門医申請にむけての手順

①必要な書類

1)日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

2)履歴書

3)都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム修了証(コピー)

②提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末目までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出する。

③内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となる。

11　プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う(資料１。「東京都立墨東病院研修施設群」参照)。

12　プログラムの特色

(1)本プログラムは、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院である東京都立墨東病院を基幹施設として、東京都区東部医療圏、近隣医療圏および東京都のへき地等にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練される。研修期間は基幹施設 2 年間十連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間である

(2) 本プログラムでは、都立病院・(公財) 東京都保健医療公社病院が基幹施設となっている全領域の専門研修プログラムと合同で、集合研修を実施する。

①災害医療研修（1 年次）

・災害医療の基礎概念を理解する。

・災害現場初期診療、救護所内診療、搬送等を想定して、実践的な訓練を行う。

・災害現場での手技を習得する。

②研究発表会（2 年次）

・臨床研修、研究成果を学会に準じてポスター展示と口演により発表する。

(3)本プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。そして、個々の患者に適切な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標の達成とする。

(4)基幹施設である東京都立墨東病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できる。

(5)基幹施設である東京都立墨東病院での 2 年間(専攻医 2 年修了時)で､「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できる。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できる(指導医マニュアル：別表 1 参照)。

(6)本プログラム施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 3 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践する。

(7)基幹施設である東京都立墨東病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間(専攻医 3 年修了時)で､「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とする(指導医マニュアル：別表 1 参照)。少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を主担当医として経験し、J-OSLER に登録する。

13　継続した subspecialty 領域の研修の可否

・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合診療科外来(初診を含む)、subspecialty 診

療科外来(初診を含む)、subspecialty 診療科検査を担当する。結果として、subspecialty 領域の研修につながる。
・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させる。

14　逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行う。逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行う。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、本プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てる。

15　研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とする。

16　その他

特になし。

別表 1　都立墨東病院施設群内科　東京医師アカデミー専門研修　週間予定表（例）

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td colspan="5">内科　朝カンファレンス＜各診療科（Subspecialty）＞</td><td rowspan="3">担当患者の病態に応じた診療／オンコール／日当直／講習会・学会参加　な</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td></tr>
<tr><td>内科外来診療（総合）</td><td>内科外来診療＜各診療科(Subspecialty)＞</td><td>内科外来診療＜各診療科(Subspecialty)＞</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td>入院患者診療</td><td>内科検査
＜各診療科
(Subspecialty)
＞</td><td>入院患者
診療</td><td></td><td>入院患者
診療</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">内科合同カンファレンス</td><td>入院患者
診療</td><td>抄読会</td><td rowspan="2">内科入院患者カンファレンス
＜各診療科
(Subspecialty)
＞</td><td rowspan="2">内科救急当番</td></tr>
<tr><td>地域参加型カンファレンスなど</td><td>講習会
ＣＰＣなど</td></tr>
<tr><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直など</td></tr>
</table>

★　都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム「４．専門知識・専門技能の習得計画」に従い、内科専門研修を実践します。

・上記はあくまでも例：概略です。

・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。

・入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます。

・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します。

・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

整備基準 45 に対応

別添３

都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

指導医マニュアル

1　専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・1 人の担当指導医(メンター)に専攻医 1 人が本プログラムプログラム委員会により決定される。

・担当指導医は、専攻医が web にて J-OSLER にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をする。この作業は目常臨床業務での経験に応じて順次行う。

・担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承語する。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修管理委員会からの報告などにより研修の進捗状況を把握する。専攻医は subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談する。担当指導医と subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整する。

・担当指導医は subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行う。

・担当指導医は専攻医が専門研修(専攻医)2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読･評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う。

2　専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期

･年次到達目標は、下記**指導医マニュアル：別表 1：東京都立墨東病院疾患群症例病歴要約到達目標（内科専攻研修 1 において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について）**に示すとおりである。

・担当指導医は、臨床研修管理委員会と協働して、3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促す。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。

・担当指導医は、臨床研修管理委員会と協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促す。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。

・担当指導医は、臨床研修管理委員会と協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡する。

・担当指導医は、臨床研修管理委員会と協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフイードバックを行い、形成的に指導する。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフイードバックを形成的に行って、改善を促す。

3　個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

・担当指導医は subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行う。
・研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行う。
・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除、修正などを指導する。

4　日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の利用方法

・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認する。
・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用いる。
・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認する。
・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード(J-OSLER)によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認する。
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握する。担当指導医と臨床研修管理委員会はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断する。
・担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断する。

5　逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧する。集計結果に基づき、本プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てる。

6　指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時(毎年 8 月と 2 月とに予定の他に)で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)

を行い、その結果を基に東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みる。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行う。

7　プログラムならびに各施設における指導医の待遇

東京都立墨東病院給与規定による。

8　FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨する。指導者研修(FD)の実施記録として、J-OSLER を用いる。

9　日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)を熟読し、形成的に指導する。

10　研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とする。

11　その他

特になし。

別表１　東京都立墨東病院疾患群症例病歴要約到達目標（内科専攻研修１において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について）

	内　容	専攻医３年修了時（カリキュラムに示す疾患群）	専攻医３年修了時（修了要件）	専攻医２年修了時（経験目標）	専攻医１年修了時（経験目標）	※4 病歴要約提出数
分　野	総合内科Ⅰ（一般）	1	※3 1	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者）	1	※3 1	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	※3 1	1		
	消化器	9	※1 ※3 5 以上	※1 5 以上		※1 3
	循環器	10	※3 5 以上	5 以上		3
	内分泌	4	※3 2 以上	2 以上		※2 3
	代　謝	5	※3 3 以上	3 以上		
	腎　臓	7	※3 4 以上	4 以上		2
	呼吸器	8	※3 4 以上	4 以上		3
	血　液	3	※3 2 以上	2 以上		2
	神　経	9	※3 5 以上	5 以上		2
	アレルギー	2	※3 1 以上	1 以上		1
	膠原病	2	※3 1 以上	1 以上		1
	感染症	4	※3 2 以上	2 以上		2
	救　急	4	※3 4	4 以上		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1

※4 合　計	70 疾患群	56 疾患群（任意選択含む）	45 疾患群（任意選択含む）	20 疾患群	※5 29 症例（外来は最大 7）
※4 症例数	200 以上（外来は最大 20）	160 以上（外来は最大 16）	120 以上	60 以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

なお「消化管」の提出病歴要約として、研修手帳の消化器領域・疾患群 9 にある「急性腹症」は「消化管」としての提出には含まれない．救急領域としての提出は可能。

※2 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出すること。

例）「内分泌」2 例＋「代謝」1 例 or 「内分泌」1 例＋「代謝」2 例

※3 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。

※4 初期臨床研修時の症例は、例外的に各研修プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる（下記の内科領域 初期研修の症例取り扱いについて参照)。

※5 病歴要約の領域別症例は異なる疾患群からそれぞれ作成すること。

《参 考》: 内科領域 初期研修の症例取り扱いについて

◆以下の条件を満たすものに限り、その取り扱いを認める.

1. 日本内科学会指導医が直接指導をした症例であること.
2. 主たる担当医師としての症例であること.
3. 1 の指導医から内科領域専門医としての経験症例とする承認が得られること.
4. 内科領域の専門研修プログラムの統括責任者の承認が得られること.
5. 内科の専門研修で必要とされる修了要件 160 症例のうち 1/2 に相当する 80 症例を上限とする. 病歴要約への適用も 1/2 に相当する 14 症例を上限とする.

別表 2　都立墨東病院施設群内科　東京医師アカデミー専門研修　週間予定表（例）

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="4">午前</td><td colspan="5">内科　朝カンファレンス＜各診療科（Subspecialty）＞</td><td rowspan="4">担当患者の病態に応じた診療／オンコール／日当直／講習会・学会参加　など</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td rowspan="3">入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td>内科外来診療（総合）</td><td>内科外来診療＜各診療科（Subspecialty）＞</td><td>内科外来診療＜各診療科（Subspecialty）＞</td></tr>
<tr><td rowspan="2">午後</td><td>入院患者診療</td><td>内科検査＜各診療科（Subspecialty）＞</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td>内科合同カン</td><td>入院患者診療</td><td>抄読会</td><td>内科入院患者カンファレンス＜各診療科</td><td>内科救急当番</td></tr>
</table>

	ファレンス	地域参加型カンファレンスなど	講習会 ＣＰＣなど	(Subspecialty) ＞		
	担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直など					

★　都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム「４．専門知識・専門技能の習得計画」に従い、内科専門研修を実践します。

・上記はあくまでも例：概略です。

・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。

・入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます。

・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します。

・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。